

このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございました。

- ご使用の前に、この取扱説明書をよく読んで正しく安全にご使用ください。
- お読みになった後も保管してください。
- 本機を他人に貸す場合は、取り扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。

保証書に購入店などの記載がない場合は、レシートなどを貼り付けてください。

改良のため、予告なく仕様を変更する場合があります。仕様変更などにより、本機のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますがご了承ください。

本書で示す安全事項は起こりうる全ての状態を表していません。

製品の安全性には十分気を配っておりますが、取扱される際は取扱説明書をよく読み、安全に十分お気を付けください。

乱丁、落丁はお取り換えします。

製品アンケートご協力のお願い

より良い商品開発の参考にさせて顶きますので、アンケートへのご協力をお願いいたします。



・アンケートの実施については予告なく変更・削除されることがあります。
・通信料金はお客様のご負担となります。

EFB-53D エンジン草芝刈機 取扱説明書（保証書付）

用途

草刈り、芝刈り

用途以外の目的に使用しないでください

目次

はじめに

各部の名称と付属品	2
安全上のご注意	4

準備

組み立て	6
給油	9
運搬	12

使用方法

作業前点検	13
使用方法	16

保守・点検

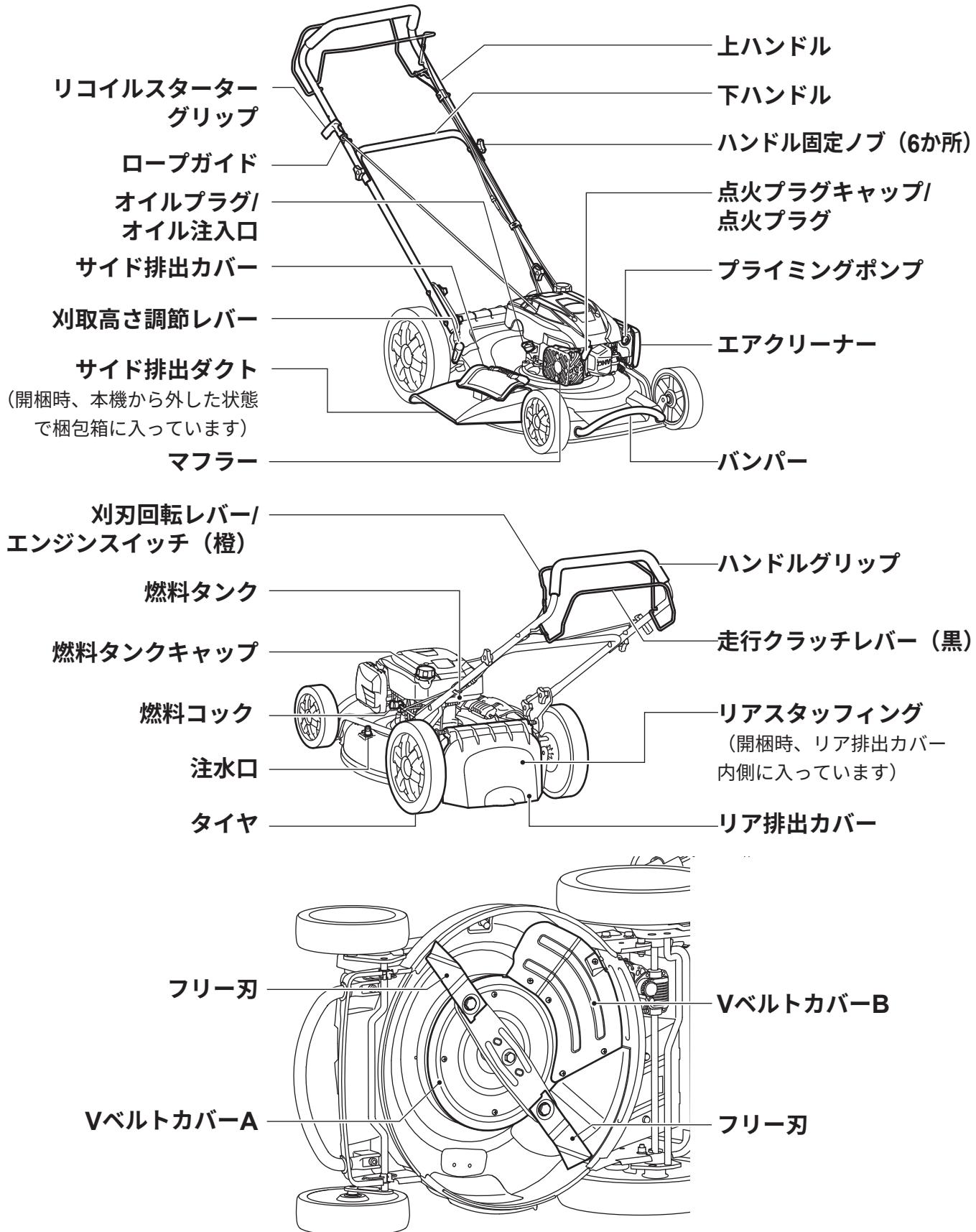
使用後のお手入れ	23
保管	24
定期点検を行いましょう	27
「故障かな?」と思ったら(故障と処置)	28
整備	29

その他

仕様	38
パーツのご注文は	39
保証書	裏表紙

各部の名称と付属品

1. 各部の名称

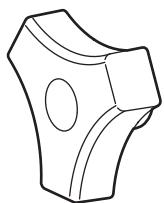


各部の名称と付属品

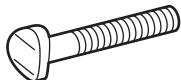
2. 付属品

同梱されている付属品がすべてそろっているか確認してください。

ハンドル固定ノブ×6



ボルト×6

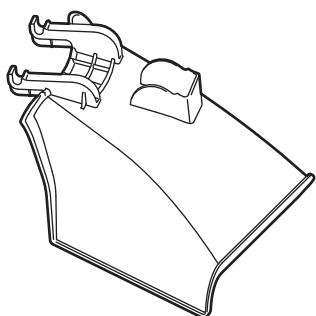


クランプ



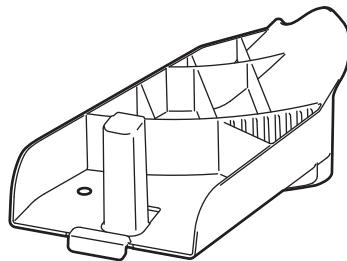
サイド排出ダクト

(開梱時、本機から外した状態で梱包箱に入っています)



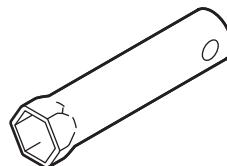
リアスタッフィング

(開梱時、リア排出カバー内側に入っています)

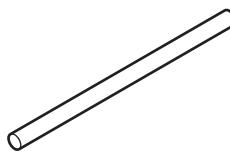


点火プラグレンチ (六角対辺：20.8mm)

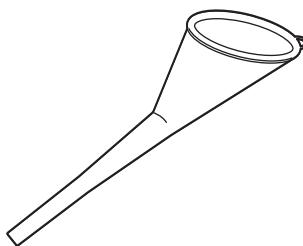
点火プラグを取り付け・取り外しするときに使用します。
バーハンドルを穴にさしこみ使用します。



バーハンドル



漏斗



取扱説明書 (本誌)

安全上のご注意

使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用する方や他の人々への危険や損害を未然に防止するためのものです。

- 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を「危険」「警告」「注意」に区分し、説明しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

 危険	人が死亡、または重傷を負うおそれの高い内容です。
 警告	人が死亡、または重傷を負うおそれのある内容です。
 注意	人が傷害を負う、および本機やほかの財産に物的損害が発生するおそれのある内容です。

- お守りいただく内容を区分して説明しています。

 してはいけない「禁止」の内容です。	 必ず守っていただく「実行」の内容です。
---	---

- その他の表示

取り扱いのポイント	正しい操作のしかたや守っていただく要点などを示しています。
-----------	-------------------------------

- 本機に関するこ

 危険
<p>! 刈刃などは指定のトルク値で締め付ける</p> <p>フリー刃の固定ボルトが規定のトルクで締め付けられていない場合、それらが外れて使用者や周囲の人、動植物などが死傷するおそれがあります。お客様がトルクレンチなど適切な工具と整備技術をお持ちでない場合は作業を行わず、本紙裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。</p>

安全上のご注意

⚠ 警告

- 🚫 本機を分解、修理、改造しない
指定部品以外は使用しない
異常動作してケガをする、また本機や接続機器が故障する原因になります。
- 🚫 次のときは本機を使用しない
 - ・疲れているとき、身体が不調のとき
 - ・酒類や薬を飲んで正常な操作ができないとき
- 🚫 夜間や悪天候などで視界が悪いときは作業しない
本機には作業灯が装備されていません。
- 🚫 カバー類を外したまま使用しない
手足を挟む事故や、ケガの原因になります。
- 🚫 各操作に充分に慣れ、正しく取り扱う方法およびすばやく停止する方法を習得する
- 🚫 刈刃回転レバー/エンジンスイッチ（橙）を意図して固定しない
刈刃回転レバー/エンジンスイッチ（橙）をヒモなどで固定すると、安全機構が働かず危険です。
- ❗ 点検時に機体を傾けるときは必ず後方から見て右側に倒す（エアクリーナーが上、マフラーが下になる状態）
その他の方向に傾けるとガソリンがもれ火災の原因となります。また、始動不良や白煙を上げる原因となります（オイル上がり）。詳細は14ページの図をご覧ください。

騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制がありますので、ご近所などの周囲に迷惑をかけないようにご使用ください。

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

組み立て

工場出荷時、ハンドルは本体に固定されていません。以降の要領に従って、本機を組み立ててください。

1. 組み立ての準備

梱包箱からハンドルと本体、付属品を取り出してください。

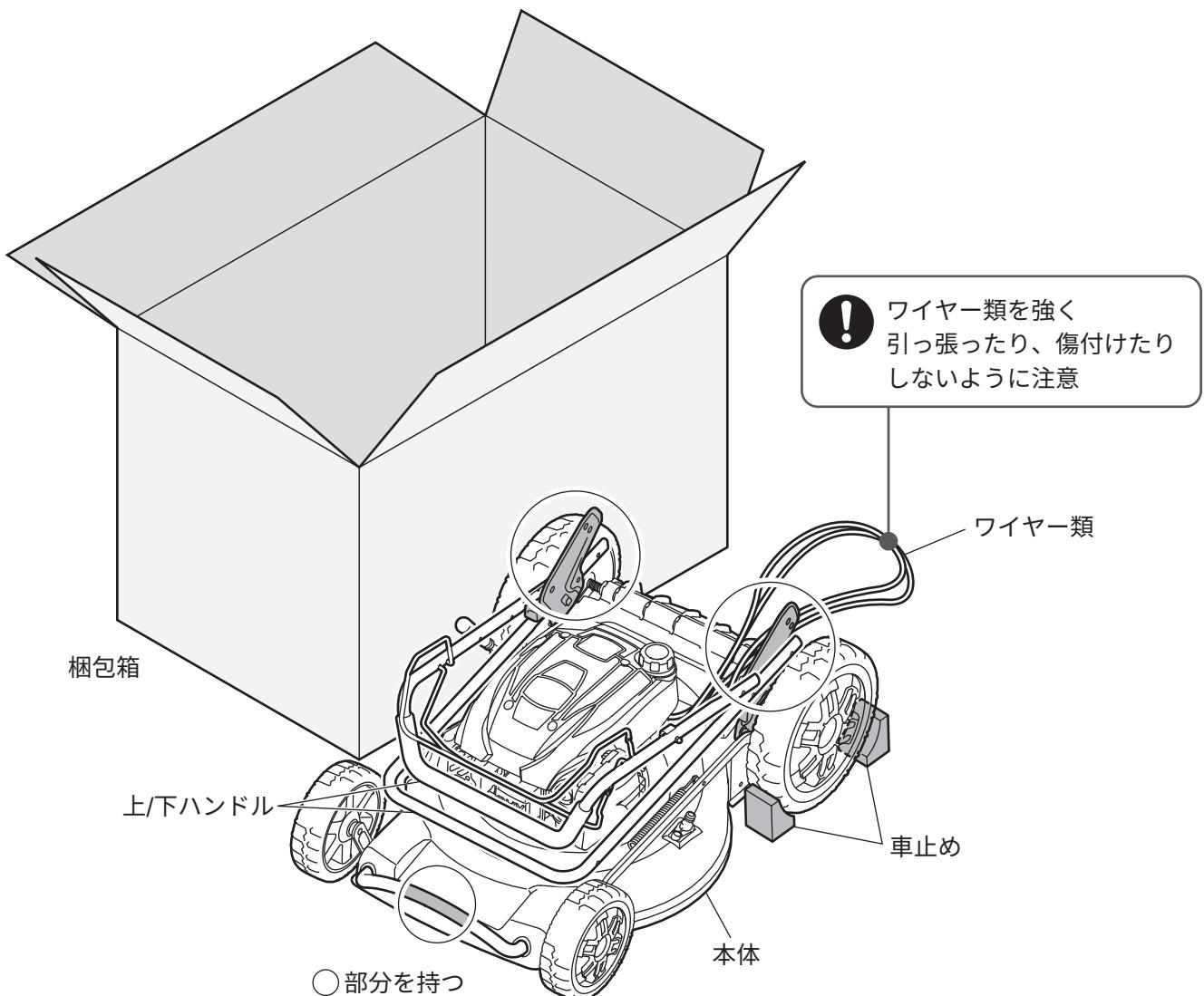
⚠ 注意

- ! 組み立て作業は必ず厚手の手袋を着用して行う
- ! 水平な場所でエンジンを停止して行う

1) 付属品を梱包箱から取り出す

2) 本機およびハンドルを、ワイヤー類を強く引っ張ったり傷付けたりしないよう注意しながら、二人で本機を持ち上げて取り出す

本機にはブレーキ機構はないため、適宜車止めなどを使用して本機が不意に動かないようにしてください。



組み立て

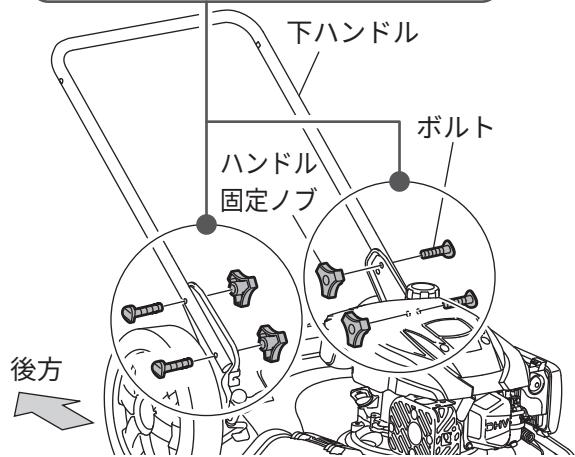
2. ハンドル

1) 17ページを参考に、刈取高さを「7(一番高い状態)」にする

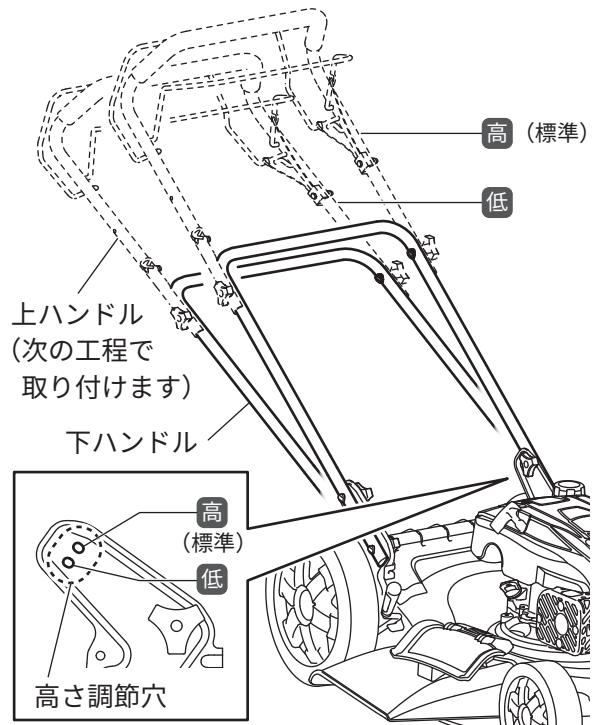
この次に、一番下のハンドル固定ノブおよびボルトを取り付けるために、機体の高さを上げる必要があります。

2) 図のように、下ハンドルをハンドル固定ノブとボルト4本で固定する(両側)

! ボルト締め時、ハンドルへの指はさみ注意



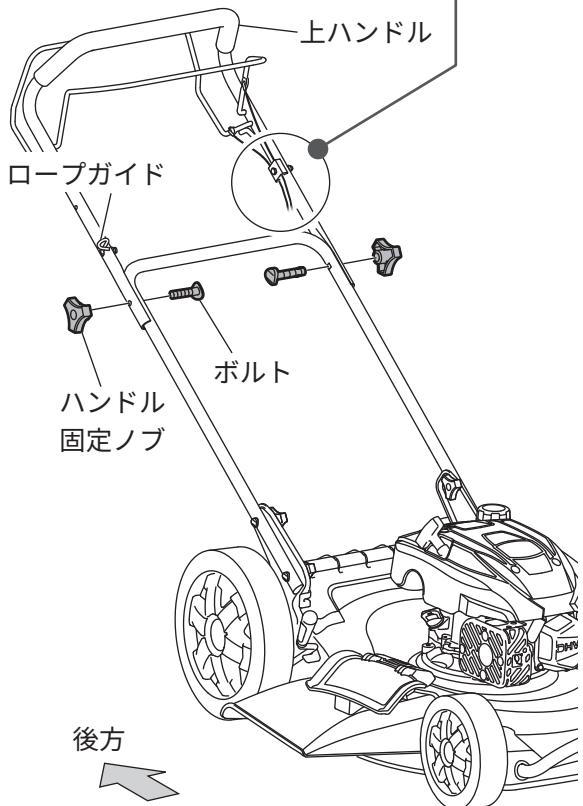
《高さ調節穴について》



3) 図のように、上ハンドルをハンドル固定ノブとボルト2本で固定する(両側)

! ワイヤー2本を平行にすること

(詳細次ページ「ワイヤー類」の図参照)

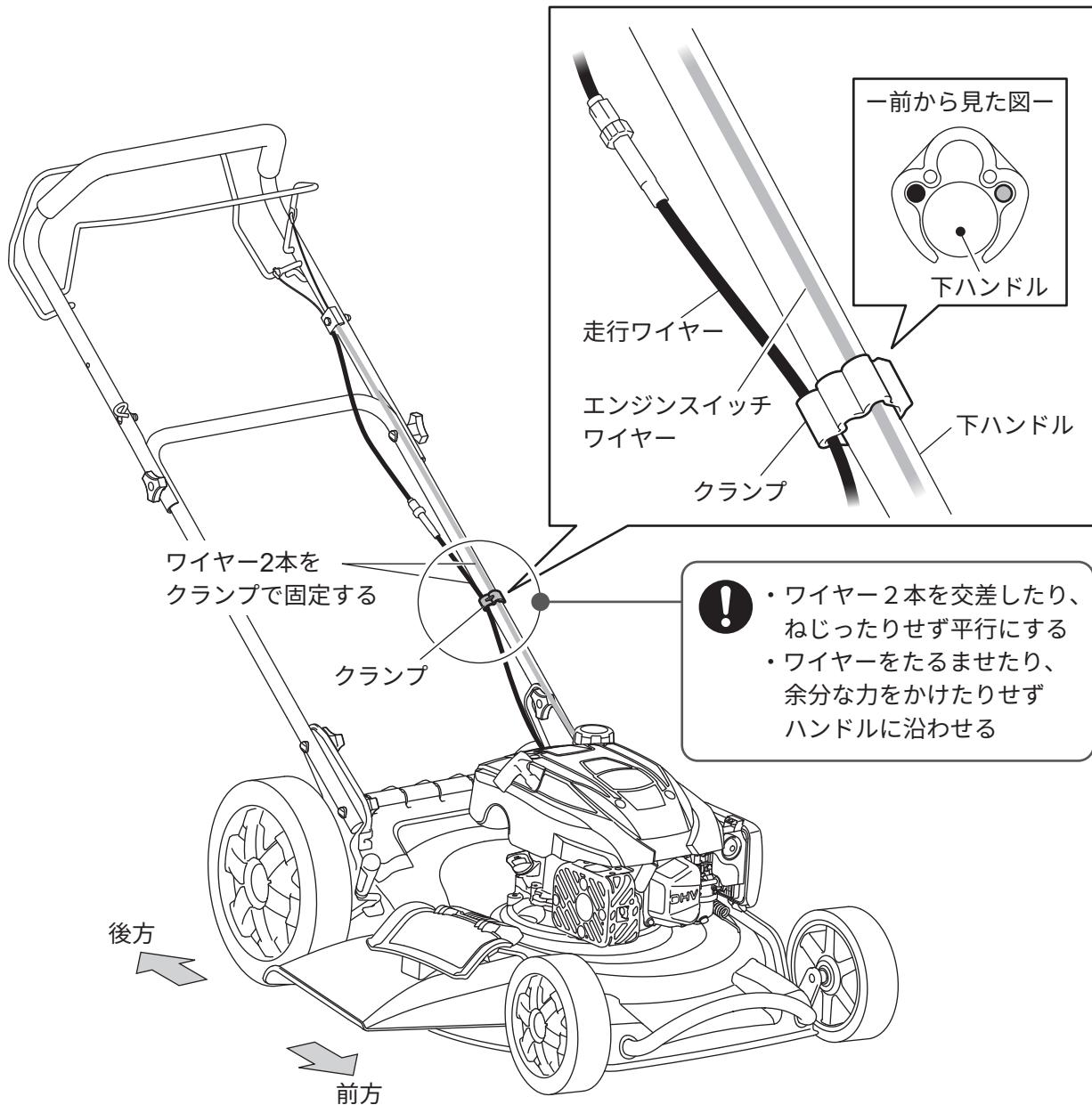


△ 注意

! 本機の後ろに立ったとき、ロープガイドがハンドル右側にあることを確認してください。

3. ワイヤー類

1) 図を参考に、付属のクランプでワイヤー類を固定する



取り扱いのポイント

- ワイヤー類の取り扱いについて、以下をお守りください。破損の原因となります。
- 無理に引っ張ったり、強い衝撃を与えたりしない
- 過度に曲げたり、ねじったりしない
- ハンドルを折りたたむときなどに挟まない

給油

本機には「ガソリン」と「エンジンオイル」が必要です。必ず給油してからご使用ください。

1. ガソリンの給油

燃料タンク内のガソリンが劣化するのを防ぐため、30日に1回は新しいガソリンに交換してください。

ガソリンの詳細は38ページ「仕様」をご確認ください。

⚠ 危険

❗ ガソリンを取り扱うときは次のこと注意する

守らないと火気や人体の静電気の放電による火花がガソリンに引火し、火災の原因になります。

- ・燃料タンクを開ける前に、エンジンが停止し、充分冷えていることを確認する
 - ・タバコ、炎や火花などの火気を近づけない
 - ・身体の静電気を放電する
- 本機などの金属部分に手を触ると静電気を放電することができます。

🚫 ガソリンをこぼさない

こぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。

拭き取った布切れなどは、火災と環境に充分に注意して処分してください。

ガソリンを衣服にこぼした場合、直ちに衣服を着替えてください。衣服へ引火する危険があります。

🚫 燃料タンクにガソリンが入っていて、エンジンが熱いとき、また気温が高いときは燃料タンクキャップを開けない

ガソリンが勢いよく噴出するおそれがあります。

🚫 エンジンが熱いときは給油しない

エンジン停止直後などエンジンが熱いときに給油すると引火のおそれがあります。

🚫 本機およびガソリン入り携行缶は直射日光の当たるところや高温となる場所に放置しない

ガソリンが気化して引火しやすい状態になる原因になります。

⚠ 警告



次のような所で給油する

- ・焚き火などの火種がない所
- ・換気が良い所
燃料蒸気が蓄積し火災のおそれがあります。
- ・地面が平坦・水平で固い所

⚠ 注意



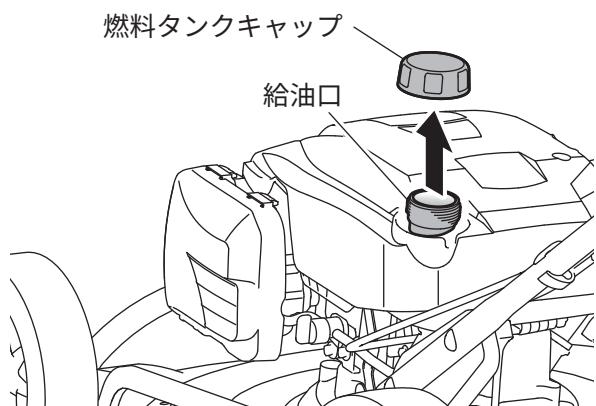
ガソリンを飲み込んだり、目に入ったり、燃料蒸気を吸い込んだりした場合は、直ちに医師の診断を受ける

取り扱いのポイント

- ガソリンを一時的に保管・運搬するときは、消防法に適合した携行缶を使用してください。特にペットボトルに保管すると、ガソリン内にペットボトルの成分が溶け出し、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。
- 給油時、燃料タンク内に水、雪、ゴミが入らないように注意してください。
- 古いガソリンは使用しないでください。携行缶などで長期保管したガソリンは、エンジン始動不良や故障の原因になります。
- 指定外のガソリンや、燃料添加剤を使用しないでください。エンジンなどに悪影響を与えます。

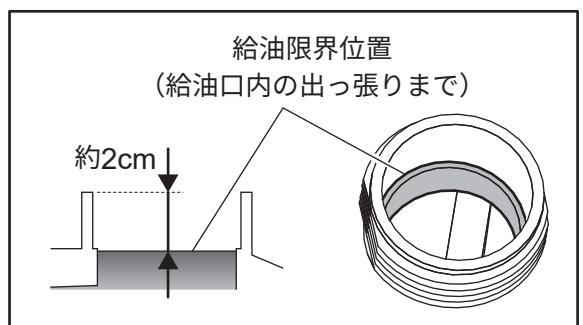
給油

1) 燃料タンクキャップを外す

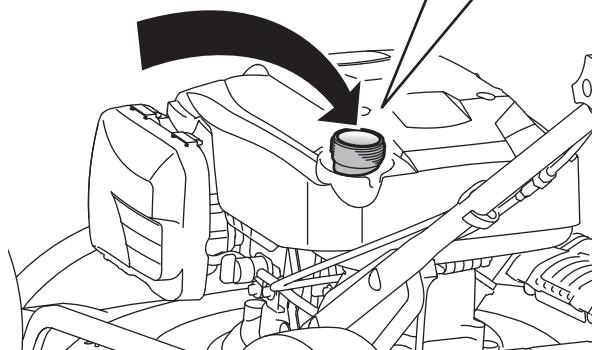


2) ガソリンを給油する

給油口の給油限界位置を超えないようにゆっくりと給油してください。限界位置以上に給油すると、ガソリンが漏れるおそれがあります。



ガソリンを給油する



取り扱いのポイント

- 燃料給油部（燃料タンク）にエンジンオイルを入れないでください。エンジンが始動しないだけでなく、内部の洗浄などのために修理が必要となります。

3) 燃料タンクキャップを取り付け、確実に締め付ける

2. エンジンオイルの給油

工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていません。またエンジン内のエンジンオイル劣化防止のため、下記および33ページ「4. エンジンオイルの交換」を参考に、給油、点検および交換を行ってください。

エンジンオイルの詳細は38ページ「仕様」をご確認ください。

⚠ 警告



エンジンオイルの交換は、エンジンが冷めるのを待つ

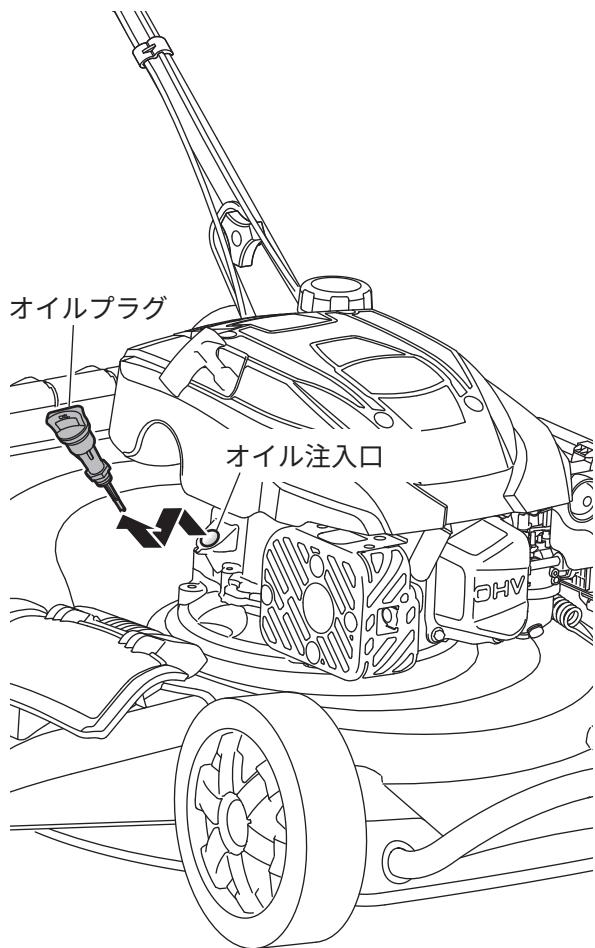
長時間使用後はエンジンオイルが熱いため、ヤケドの原因になります。

取り扱いのポイント

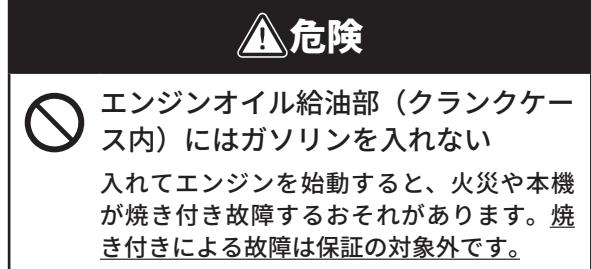
- 以下をお守りください。守らずにエンジン焼き付きなど問題が起こった場合、保証の対象外です。
 - 購入後、初めて使用するときは、エンジンオイルを規定量補給してください。工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていません。エンジンオイルが入っていない状態でエンジンを始動すると、エンジンが焼き付き破損します。
 - 指定外のオイルを使用しないでください。2サイクル用エンジンオイルやSA～SD級のエンジンオイルを使用すると、エンジンが焼き付き破損します。
 - エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。入れすぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因になります。
 - 本機を傾けてエンジンオイルを給油しないでください。傾けると規定量以上のエンジンオイルが入るため、エンジンから白煙が出る、排気口が詰まるなど、故障の原因になります。

給油

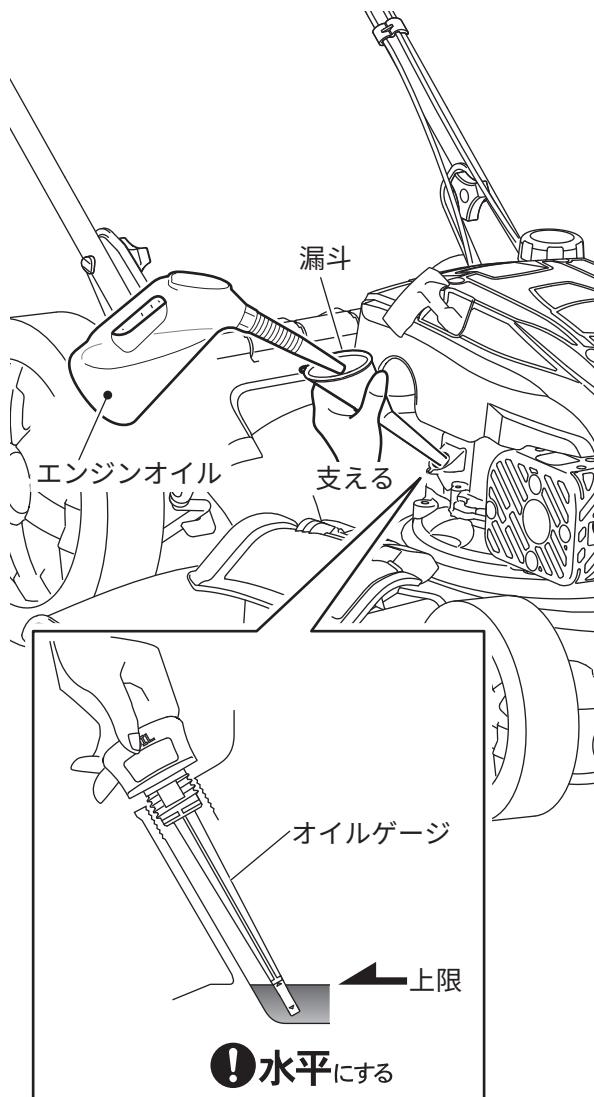
1) オイルプラグを外す



2) エンジンオイルを給油する



- ・オイル量はオイルゲージを見て調整してください。また、オイルゲージをねじ込まずに点検してください。
- ・付属の漏斗を給油口奥までしっかりとさし込んで、エンジンオイルをこぼさないように給油してください。こぼれて本機に付着した場合は、拭き取ってからエンジンを始動してください。



3) オイルプラグを取り付け、確実に締め付 ける

運搬

本機を車両などで運搬する場合には、以下を必ず守ってください。

⚠ 危険



エンジンは必ず停止する



本機およびガソリン入り携行缶を車室内やトランクに積んだまま、直射日光の当たるところや高温となる場所に放置しない

ガソリンが気化して引火しやすい状態になる原因となります。

⚠ 警告



運搬時はガソリンを抜く

ガソリンが漏れ、火災の原因になります。



荷台から本機がはみ出さない車を使用する



本機を荷台などに積み降ろしするときは、平坦な場所で行う

⚠ 注意



本機は常に水平にする

落下、横転などによりエンジンが故障したり、残っているガソリンがあふれたりする場合があります。特に運搬時は転倒しないようロープなどでしっかりと固定してください。



本機を車に積んだまま長時間悪路を走行しない



本機の上に重い物を置かない

1) 以下を用意する

- 手動式ガソリン用ポンプ
- 消防法に適合した携行缶

⚠ 危険

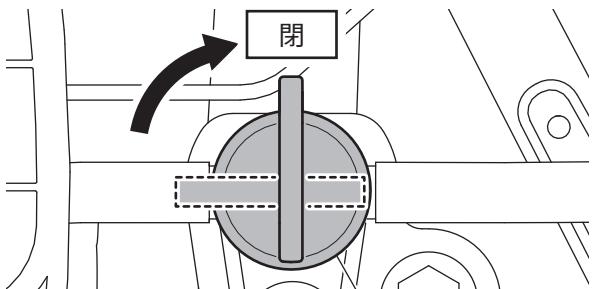


電動式ポンプは使用しない
引火の原因となります。

2) ガソリンを燃料タンクから抜いて、携行缶に入れ替える

ガソリンの抜き方：燃料タンクキャップと燃料満タンゲージを取り外し、ポンプを使用してガソリンを抜きます。

3) 燃料コックを「閉」の位置にする



⚠ 注意

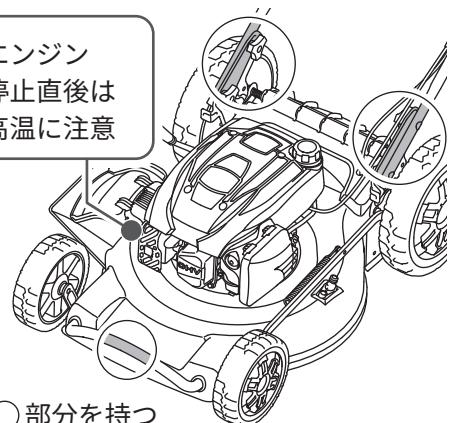
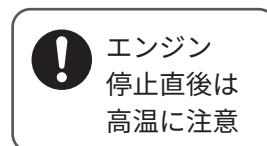


本機を使用しないときはエンジンスイッチを「OFF」にして、燃料コックを「閉」にする

4) 本機が落下、転倒、破損などしないような場所を選んで積載し、車止めやロープなどでしっかりと固定する

取り扱いのポイント

- 本機を荷台に固定する際、本機が変形するような過大な荷重でロープを締め付けないでください。破損の原因となります。
- 特に横倒ししたまま運搬すると、エンジンが始動しなくなるなど、エンジン故障の原因となります。
- 本機を手で持ち上げる場合は、下図で示した部分を持って二人で行ってください。



作業前点検

⚠ 警告

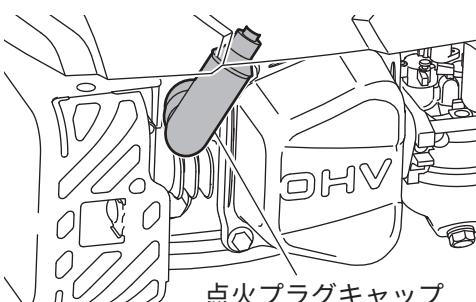
- 必ず作業開始前点検を行う
人身傷害や機械の破損を防止することができます。
- 点検は平坦な場所でエンジンを水平にして行う
エンジンを止め、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを外す
不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

取り扱いのポイント

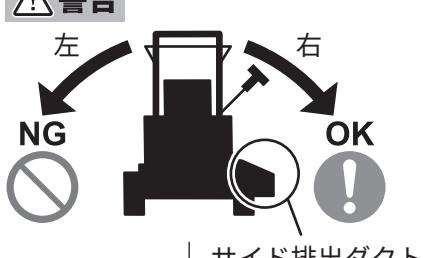
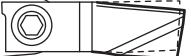
- フィルターを取り付けずにエンジンを運転しないでください。エンジンの摩耗が早まります。
- エアクリーナーカバーの取り付けは確実に行ってください。取り付けが悪いと振動でエアクリーナーカバーが外れことがあります。

1. 作業前点検

- 対象部位ごとに点検内容を確認してください。
点検時期や点検項目については、27ページ「定期点検を行いましょう」をご覧ください。
- 異常を感じたら本機を使用せず、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。

対象部位	点検内容
ガソリン	ガソリンが規定量入っていること
	ガソリンに漏れがないこと
エンジン オイル	エンジンオイルが規定量入っていること
	エンジンオイルに漏れがないこと
ハンドル	刈刃回転レバー/エンジンスイッチ(橙)、走行クラッチレバー(黒)がスムーズに作動すること
	ハンドルがしっかりと固定されていること
エア クリーナー	エアクリーナーの吸気口やフィルターに汚れがないこと
本体	キャップ類がしっかりと締め付けられていること
	エンジン周りにワラなどのゴミが付着していないこと
	スロットルワイヤーに切れや被膜破れがないこと
	点火プラグキャップを取り付けた後、エンジンを始動した際に異音がないこと (31ページ「3. 点火プラグの点検と交換」参照)
	 点火プラグキャップ
	エンジンスイッチを「OFF」にすることでエンジンが確実に停止すること

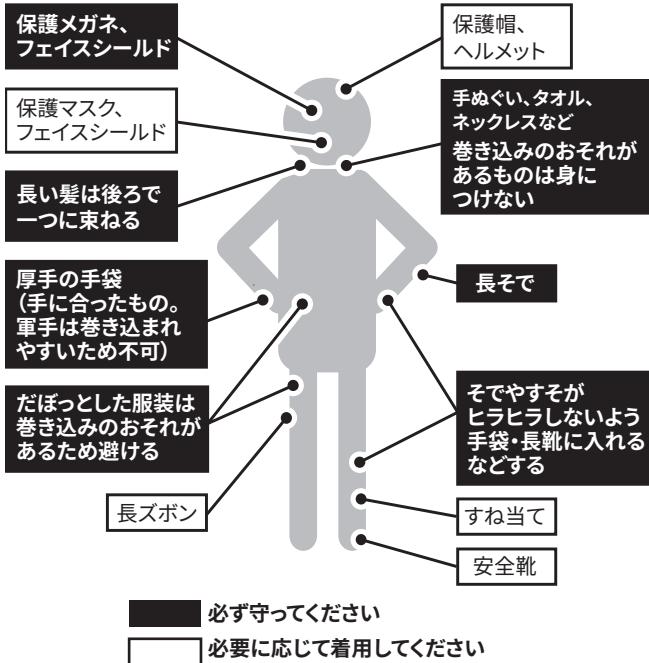
作業前点検

対象部位	点検内容
刈刃	<p>点検時に機体を傾けるときは必ず後方から見て右側に倒すこと（エアクリーナーが上、マフラーが下になる状態）</p> <p>⚠ 警告</p>  <p>ガソリンもれ サイド排出ダクトは外しておく</p> <p>高温のマフラーが周囲の草に触れないよう注意</p> <p>その他の方向に傾けるとガソリンがもれ火災の原因となります。また、始動不良や白煙を上げる原因となります（オイル上がり）。</p>
	<p>刈刃がしっかりと取り付けられていること</p> <p>刈刃に損傷や曲がりがないこと</p> <p> 刃の破損</p> <p> 刃の曲がり</p> <p> 刃先の摩耗</p> <p>上図のような状態になっていたら使用を中止してください。 刈刃の交換は適切な工具で行ってください（34ページ「5. 刈刃の交換」参照）。</p> <p>硬い石など頑丈なものに当たると、刈刃や本機に損傷を与える、またはそれら石が飛散する危険があります。取り除く、避けるなどしてください。</p>

2. 服装について

次のような安全で適切な服装で作業を行ってください。

※手袋や帽子は付属していません。別途ご用意ください。



作業前点検

3. 作業時の確認事項

対象物	確認事項
ガラス窓 車など	<p>傷をつけたくない物が近くにないか確認する</p> <p>飛散した障害物でガラスが割れたり、傷がつくおそれがありますので、板などで養生するか、移動させてください。</p>
埋蔵物	<p>足元や周囲に障害物が無いことを確認する</p> <p>作業場所に、電線管・水道管やガス管などの埋設物がないことを、作業前に充分確認してください。埋設物があると本機が触れ、感電や漏電・ガス漏れのおそれがあり、事故の原因になります。</p>
周辺	<p>半径15 m以内に人や動物がいないことを確認する</p> <p>歩道など通行路の場所を確認してください。</p> <p>小石や空き缶など障害物、地面の凸凹が草に隠れていないか確認する</p> <p>飛散すると危険ですので、取り除いてください。</p>

対象物	確認事項
周辺	<p>ハチの巣やヘビ、その他動物などが隠れていないか確認する</p> <p>付近の高所や草むらの中を静かに下見をしてください。</p> <p>作業音はハチに刺激を与え、ハチの出す警告音をかき消します。</p>

はじめに

準備

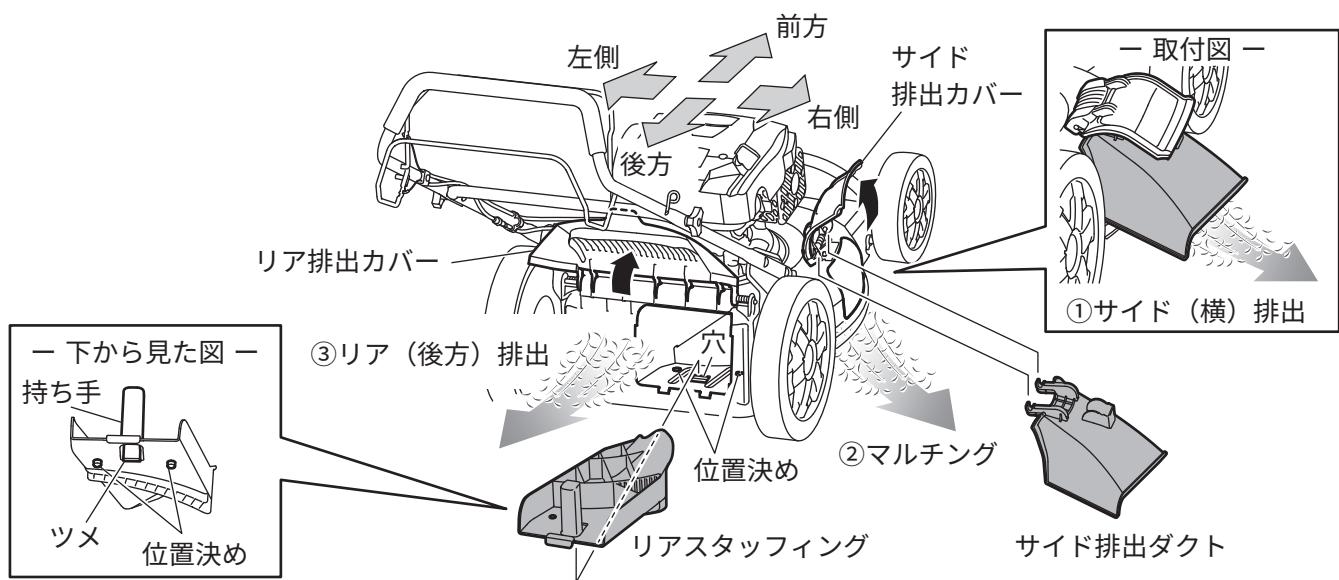
使用方法

保守・点検

その他

使用方法

1. 草の排出方向に合わせて付属品を取付ける



排出方向	刈り取った草の処理	各部の構成			
		サイド排出ダクト	サイド排出カバー	リアスタッフ	リア排出カバー
①サイド（横）排出	本機右側に排出	取り付ける	開ける	取り付ける	閉める
②マルチング*	本機下側に落とす	外す	閉める	取り付ける	閉める
③リア（後方）排出	本機後方に排出	外す	閉める	外す	閉める

* マルチングとは、刈った草を細かく粉碎してその場に戻すことで、肥料としての効果発揮や土の保温保湿効果、雑草抑制の効果があります。

1.1 リアスタッフの取付け

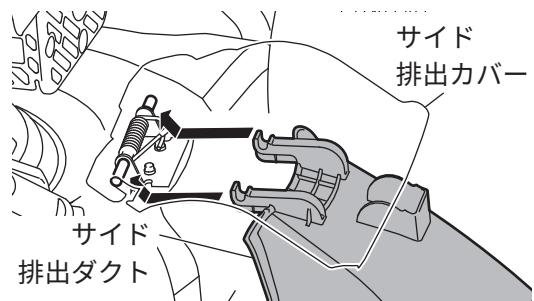
- 1) リア排出カバーを開ける
- 2) リアスタッフを、位置決めとツメを使用して所定の場所に取り付ける
リアスタッフのツメが本体の穴に確実にひっかかる事を確認してください。
- 3) リア排出カバーを閉める

取り扱いのポイント

- ・リアスタッフは奥側に傾けながら入れて、手前に引き戻すように位置決めとツメを合わせると取付けやすくなります。

1.2 サイド排出ダクトの取付け

- 1) 一方の手でサイド排出カバーを持ち上げ、もう一方の手でサイド排出ダクトを取り付ける
- 2) サイド排出カバーを放し、サイド排出ダクトを所定の位置に固定する
サイド排出ダクトがあるため、サイド排出カバーは開いたままになります。



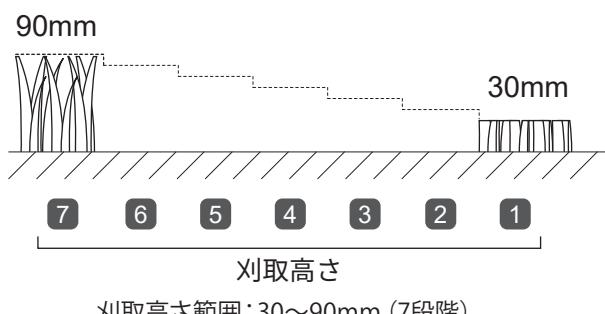
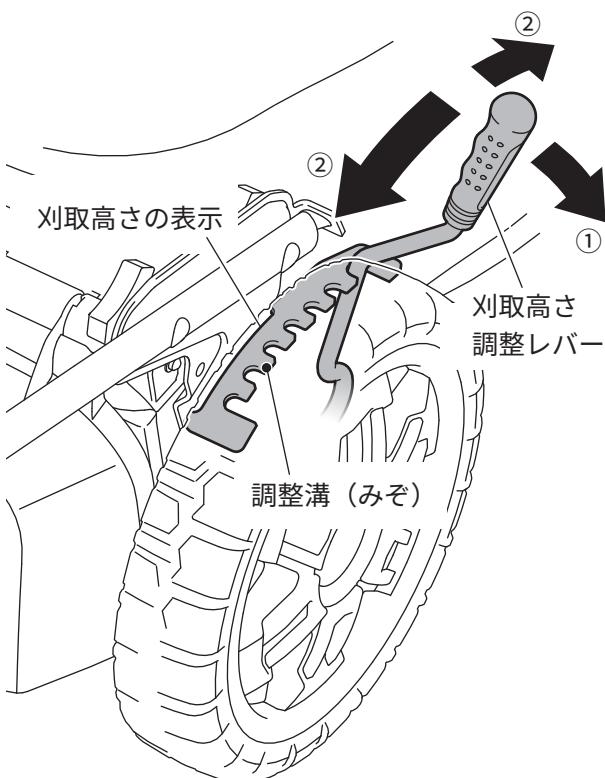
使用方法

2. 刈取高さの設定

△注意

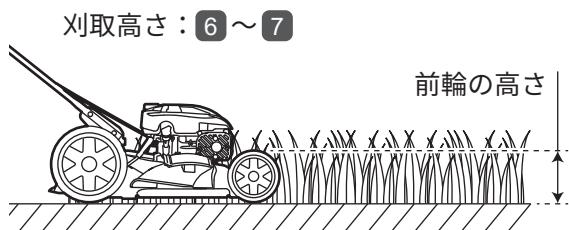
- !** 刈取高さの調整は、必ずエンジンを停止した状態で行う
- !** 本製品で芝を刈ると芝が変色することがあります。

刈取高さは刈取高さ調整レバー（以降「レバー」）で調整します。レバーを引き出し、希望の刈取高さの調整溝（みぞ）に確実に入れてください。

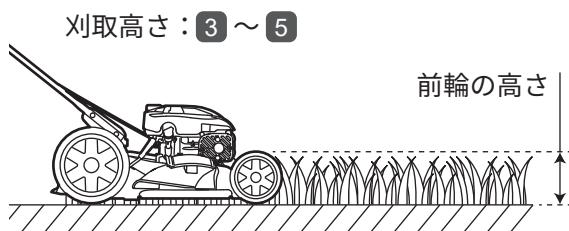


《刈取高さの設定について》

① 草の高さが前輪以上のとき



② 草の高さが前輪以下のとき



③ 芝刈り



- 芝を刈るときは、芝丈が40~60mm程度になったとき、芝丈の1/3程度を刈ってください。

使用方法

3. エンジンの始動

⚠ 危険

- 室内および換気や風通しが不充分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しない
有害な一酸化炭素がたまって中毒を引き起こす原因となります。
- 換気や風通しの悪い場所、排気ガスがこもる場所（室内、車内、テント内、トンネル内、倉庫、井戸、船倉、マンホールなど）で使用しない
エンジンの排気ガス中には有害な物質が含まれております、滞留した排気ガスによりガス中毒を起こすおそれがあります。
- 平坦・水平な硬い場所に置いて始動する
燃料タンクキャップやキャブレターからガソリンが漏れ、火災の原因になります。
- 燃料タンクやホースの破損、またはエンジンや燃料タンクからのガソリン漏れがないか確認する
破損やガソリン漏れがある場合は、直ちに本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へ修理をご依頼ください。

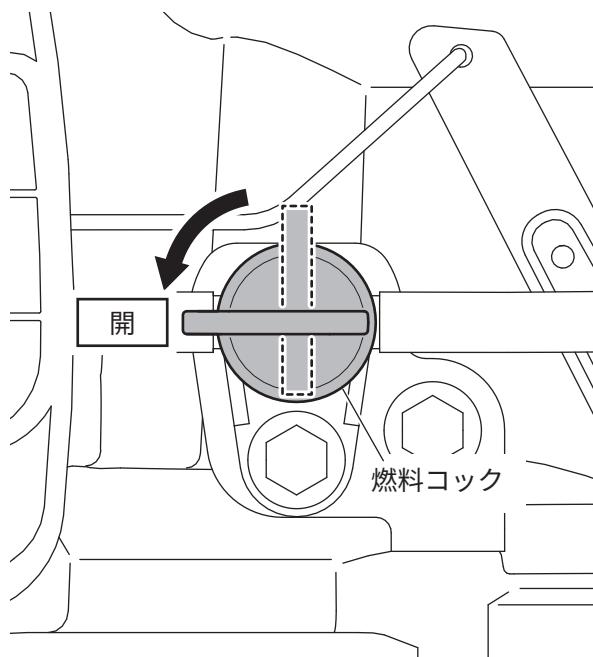
⚠ 警告

- 本機のまわりに危険物、燃えやすい物を置かない、近づけない
本機から出る排気ガスは熱くなるため、火災の原因や、本機や接続機器に損傷を起こす原因になります。
- エンジンの始動時および運転中、建物およびほかの設置物から 1 m 以上離して置く
- 排気・吸気口を風通しの良い広い場所に向ける
- 本機に箱やカバーをかぶせたり、タオルなど燃えやすいものをくくりつけたりして使用しない
また、本機の上に物を載せて使用しない
火災や故障の原因になります。

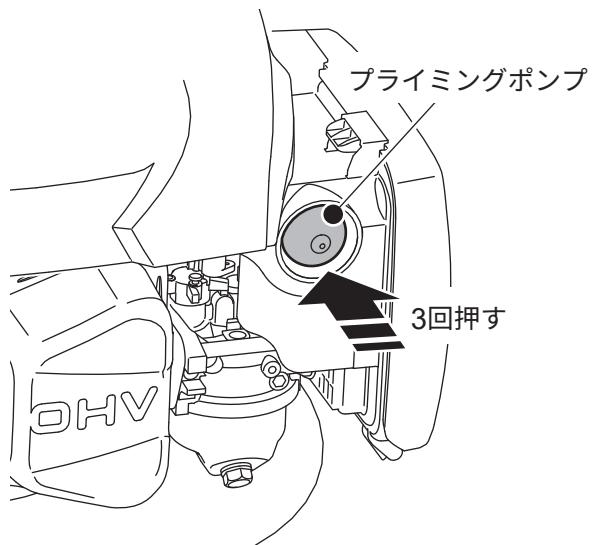
⚠ 注意

- 始動時や作業中は、高圧コードや点火プラグ、点火プラグキャップをさわらない
感電の原因になります。
- 雨の中や水のかかる場所では使用しない
雨や水でぬれている状態で本機や接続機器を使用したり、ぬれた手で操作したりすると、感電の原因になります。

1) 燃料コックを「開」の位置にする



2) プライミングポンプ（以下「ポンプ」）を3回押す

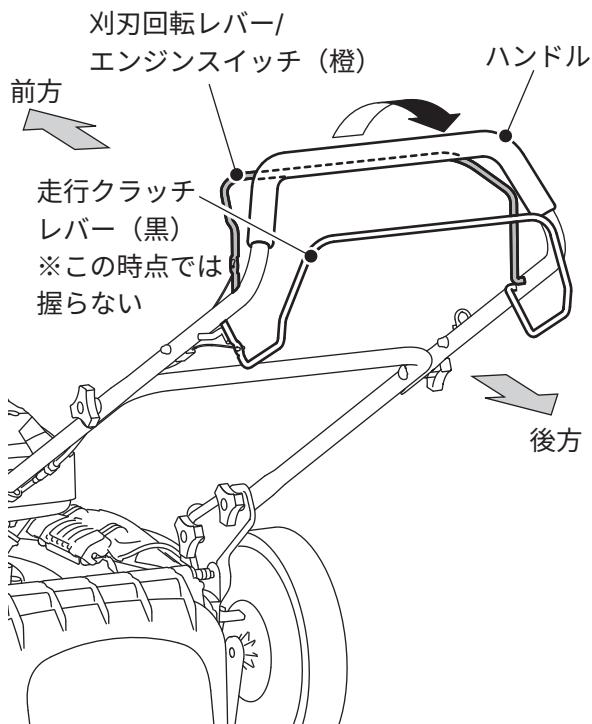


使用方法

取り扱いのポイント

- ポンプを押しすぎると点火プラグかぶりによりエンジンが始動できなくなります。
- エンジンの一時停止直後など、エンジンが暖まったままの場合はポンプを押す必要はありません。
- 燃料を使い切りエンジンストップした場合、燃料を補給し再度ポンプを3回押してください。

3) 本機の後ろに立ち、左手で刈刃回転レバー/エンジンスイッチ（橙）をハンドルまで握りこむ



取り扱いのポイント

- エンジン始動時および運転中は刈刃回転レバー/エンジンスイッチ（橙）を握り続ける必要があります。次ページ6)まで同レバーはハンドルとともにしっかりと握りこみ続けてください。

4) 左手で刈刃回転レバー/エンジンスイッチ（橙）を握りこんだまま、右手でリコイルスターターグリップ（以下「リコイル」）を持つ

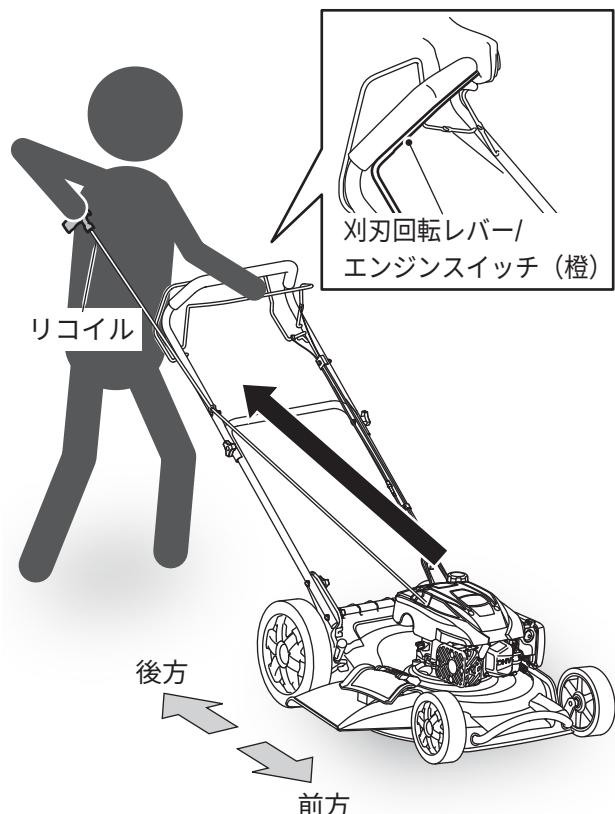
△警告



刈刃に手足を近づけない

次の動作を行うと、エンジン始動と同時に刈刃が高速で回り始めます。

5) そのままリコイルを引いて重くなるところから一旦リコイルを戻して、勢いよくリコイルを引く



△注意



リコイルを引くときは、引っ張る方向に人や障害物がないことを確認してから行う
ケガまたは損傷するおそれがあります。



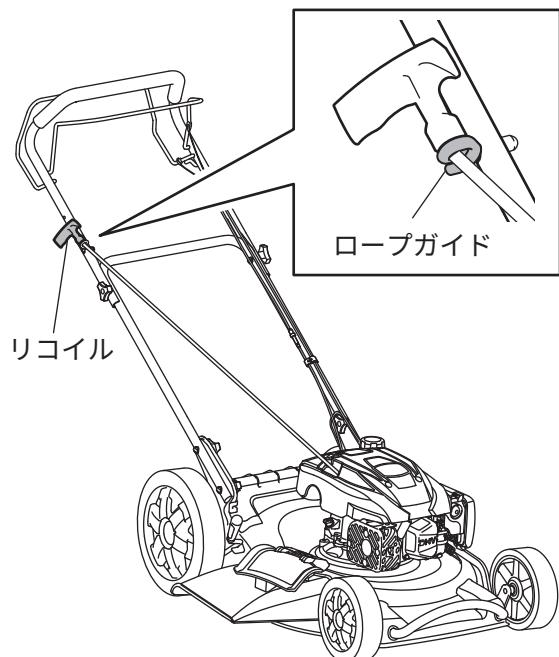
リコイルを引くとき、走行クラッチレバーを操作しない
エンジン始動と同時に本機が自走を開始し、思わぬケガや事故を引き起こす原因となります。

使用方法

取り扱いのポイント

- リコイルは勢いよく引いてください。勢いが足りない（始動時のエンジン回転が遅い）とエンジンが始動しないことがあります。

6) エンジンが始動および刈刃が回転を始めたら、リコイルをゆっくりとロープガイドに戻す



取り扱いのポイント

- リコイルをロープガイドに戻さず手を離すと、リコイルが勢いよく周りの部品にあたり破損したり、使用者に障害をあたえるおそれがあります。
- エンジンの運転中はリコイルを引かないでください。エンジンが破損する原因になります。

7) 暖気運転を行う

暖気運転は約5分間行ってください。

4. 自走機能を利用する

本機は手押しでも移動できますが、走行クラッチレバー（黒）を使用すると自走することができます。

・自走を始めるとき

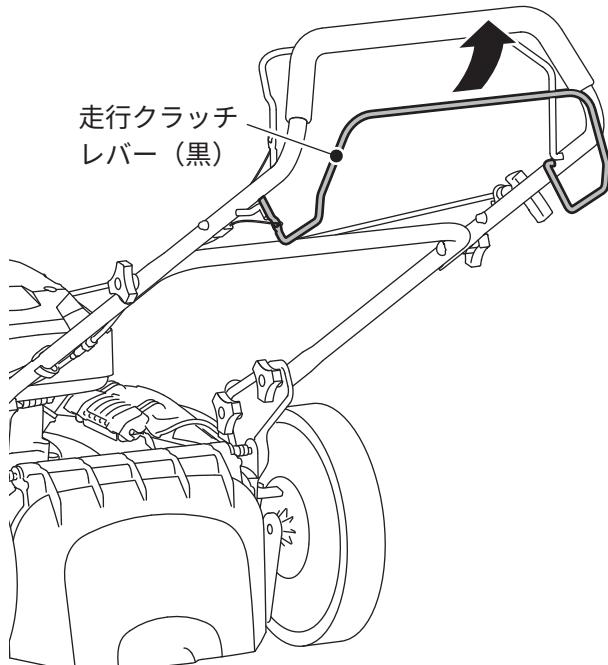
エンジン運転および刈刃の回転中に、走行クラッチレバー（黒）をハンドルまで握りこむ

・自走を止めるとき

走行クラッチレバー（黒）から手を離す

取り扱いのポイント

- 必ず握りこむ、または完全に手を離してください。同レバーの位置が中途半端で半クラッチ状態になると、Vベルトが破断するなど故障の原因になります。Vベルトの交換はお客様では行わず、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。

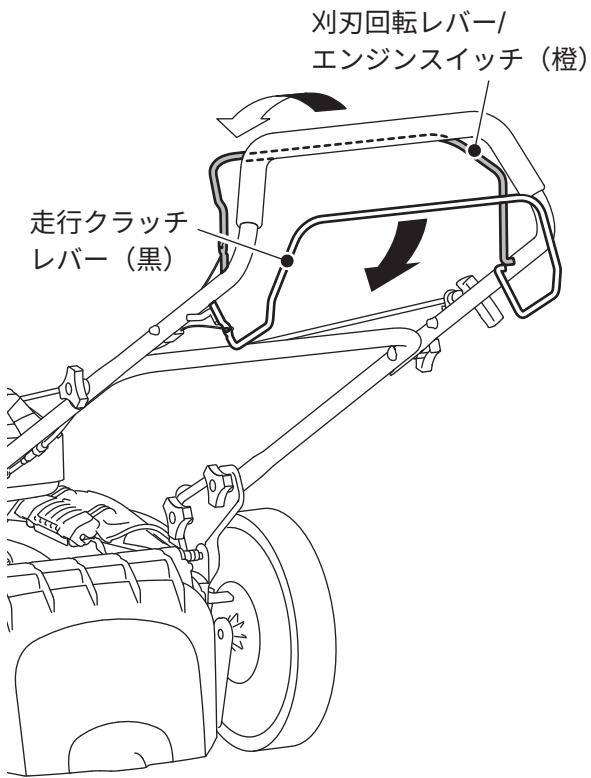


使用方法

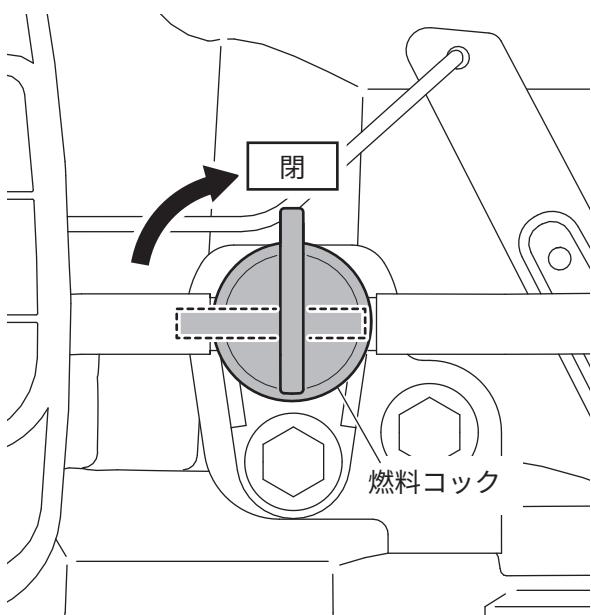
5. エンジンの停止

- 1) 刈刃回転レバー/エンジンスイッチ（橙）および走行クラッチレバー（黒）から手を離す

エンジン、刈刃の回転、および自走機能が停止します。



- 2) 燃料コックを「閉」の位置にする



6. 草を刈る

「使用方法」**1.**～**5.**を組み合わせて使用し、草を刈ってください。

△危険

- エンジン運転中、刈刃など回転する部分に絶対に手や足を入れない
刈刃に巻き込まれケガをするおそれがあります。

△警告

- !** 作業中に刈刃に異物が当たったときはすぐに以下を守り、点検を行う
損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。
 - ・必ずエンジンを停止し、不意に起動しないように点火プラグキャップを取り外す
 - ・手を保護するために厚手の手袋をする

- !** 作業中に障害物に当たったときは、すぐに刈刃回転レバー/エンジンスイッチ（橙）および走行クラッチレバー（黒）から手を放し、エンジンを停止して、損傷がないか確認する
確認せずに作業を続けると、事故の原因になります。

- !** 走らず、本機と一緒に歩く
平らでない地面やでこぼこした地面を刈るときは、十分注意してください。

△注意

- 作業中、作業直後はエンジンにさわらない
排気口やエンジン各部は高温になっているため、ヤケドの原因になります。
! 作業中に音、におい、振動などの異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、使用を中止する
本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」または購入店へご相談ください。

使用方法

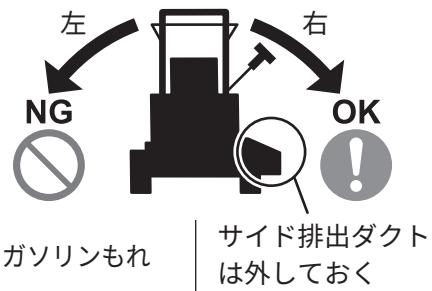
《つまた草や土を取り除くときは》

⚠ 危険

🚫 つまた草や土を取り除く前にエンジンを停止する
刈刃に巻き込まれケガをするおそれがあります。

⚠ 警告

❗ 点検時に機体を傾けるときは必ず後方から見て右側に倒す（エアクリーナーが上、マフラーが下になる状態）



高温のマフラーが周囲の草に触れないよう注意

その他の方向に傾けるとガソリンがもれ火災の原因となります。また、始動不良や白煙を上げる原因となります（オイル上がり）。

❗ 刈刃や周辺の草を取り除くときはブラシなど適切な道具を使用する

刈刃周辺を水洗いするときは次ページ「使用後の手入れ」を参照ください。

取り扱いのポイント

- 草が乾いている状態で作業してください。草が濡れると、刈刃や各部に詰まりやすくなります。
- 草の状態（高さ、密集度など）により、草がうまく粉碎されず刈刃にからんで停止することがあります。その場合は以下を試し、様子を見ながら作業を行ってください。
 - 先にはさみなどである程度刈り取っておく
 - 最初は刈取高さを高くしておいて徐々に低くするなど、何回かに分けて刈り取る
 - マルチング機能を使って刈る場合は、刈り取った草を効率よく分散させるため草丈の低い、また乾いた状態で刈るようにしてください。また、数分刈ったら、エンジンを止めて刈刃や周辺を掃除してください。

7. 作業を一時中断するときは

- エンジンを停止し、背の高い草や可燃物から離れた平地に本機を移動してください。エンジン停止直後のマフラーは高温であり、不意に草が触ると火災の原因になります。
- 本機から離れるときは車止めなどを使用し、本機が移動しないようにしてください。本機にはブレーキ機構はありません。

⚠ 注意

❗ 本機を使用しないときはエンジンスイッチを「OFF」にして、燃料コックを「閉」にする

使用後のお手入れ

エンジンを停止し、刈刃やエンジンに付着した草やゴミを取り除いてください。火災を起こす原因となります。

⚠ 警告

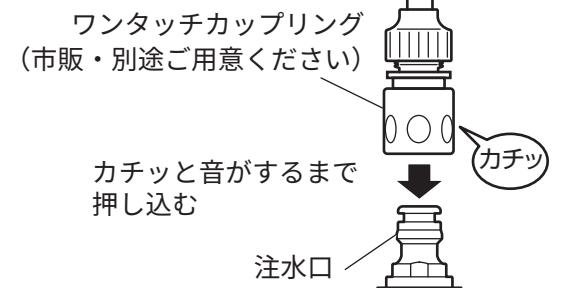
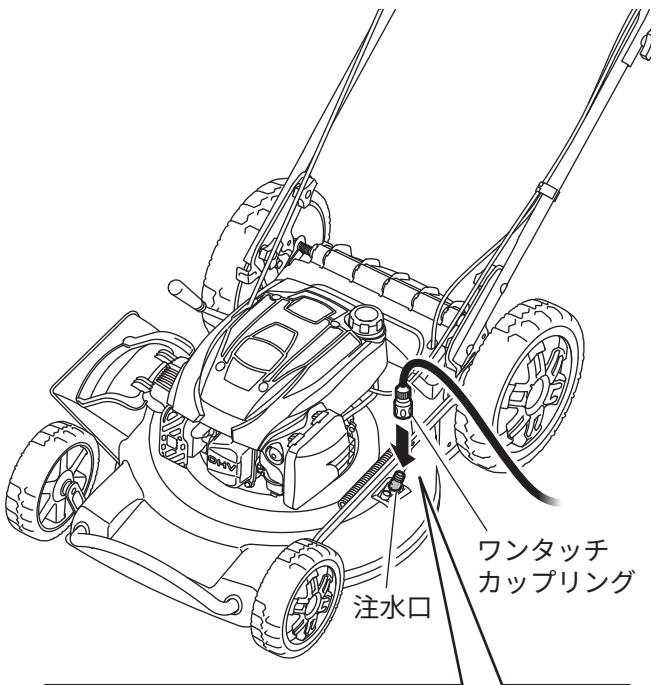
- ⚠ お手入れはエンジンが冷えてから行う
エンジン停止直後は、エンジンや排気口、エンジンオイルの温度が高くなっているため、ヤケドのおそれがあります。
- ⚠ お手入れは、平坦で安全な場所で行う

⚠ 注意

- ⚠ 刈刃や周辺のお手入れを行うときは、厚手の手袋をする
ケガをするおそれがあります。
- ⚠ 車止めなどを使用し、本機が移動しないようする
本機にはブレーキ機構はありません。

1. 刈刃周辺（デッキ内）の水洗いについて

注水口に水道ホースを接続し、エンジン運転により刈刃を回転することで、刈刃とデッキ内を水洗いすることができます。



取り扱いのポイント

- 水洗いするときはエアクリーナーの空気取入れ口や電装部品、エンジン周りに水がかからないように注意してください。水がかかると故障の原因となります。
- 水洗いするときは高压洗浄機を使用しないでください。電気配線部、電装品などの損傷や浸水で故障するおそれがあります。
- 水洗いするときは、水が凍らないよう5°C以上の環境で行ってください。

保管

次回の使用が30日以上になる場合は「1.一時保管」を、次のシーズンまで使用しない場合は「2.長期保管」を行ってください。

⚠ 警告

- ⚠ 点検、整備は平坦・水平な場所で行う

⚠ 注意

- ⚠ 点検、整備や清掃時は必ずエンジンを停止する
誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキヤップを取り外してください。
- ⚠ エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなどの温度、また油温も高くなっているため冷えてから行う
ヤケドをするおそれがあります。
- 🚫 エンジン部や排気口部が充分に冷えるまで、本機に箱やカバー・シートなどをかぶせない
火災の原因になります。
- 🚫 本機、特に燃料タンクの上に物を置かない
- ⚠ 車止めなどを使用し、本機が移動しないようする
本機にはブレーキ機構はありません。

《保管場所について》

以下のような状態、場所で保管してください。
特に本機に直接砂ぼこり、粉じん、煤煙などかかる場所に置かないでください。故障およびエンジン部品の早期摩耗の原因になります。

- 火気や湿気、凍結のおそれがない場所
- 室内で換気が良い場所
- 水平の状態で、平坦で安定した場所

1. 一時保管

⚠ 危険

- ⚠ ガソリンを取り扱うときは次のことに注意する
守らないと火気や人体の静電気の放電による火花がガソリンに引火し、火災の原因になります。
 - 燃料タンクを開ける前に、エンジンが停止し、充分冷えていることを確認する
 - タバコ、炎や火花などの火気を近づけない
 - 身体の静電気を放電する
本機などの金属部分に手を触ると静電気を放電することができます。

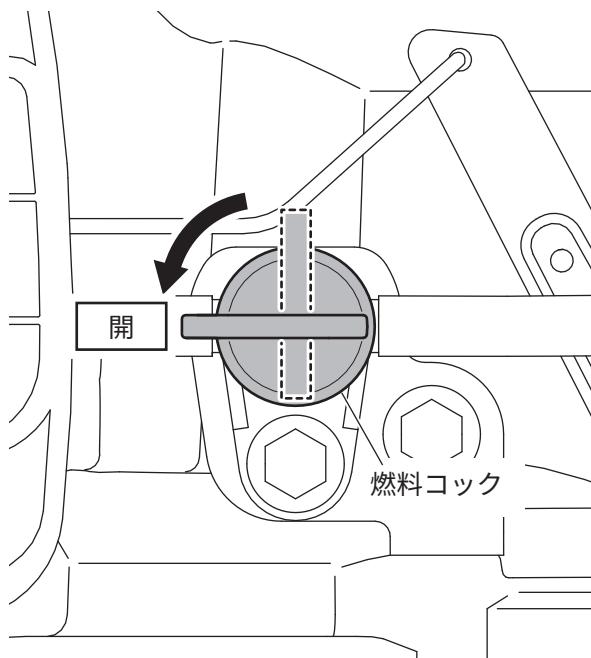
1) 以下を用意する

- 手動式ガソリン用ポンプ
- 消防法に適合した携行缶

⚠ 危険

- 🚫 ガソリンを抜くとき、電動式ポンプは使用しない
引火の原因になります。

2) 燃料コックを「開」の位置にする



保管

3) ガソリンを燃料タンクから抜いて、携行缶に入れ替える

ガソリンの抜き方：燃料タンクキャップと燃料満タンゲージを取り外し、ポンプを使用してガソリンを抜きます。

4) 燃料タンクキャップを取り付ける

△ 注意



燃料タンクキャップは確実に締め付ける

5) エンジンを始動する

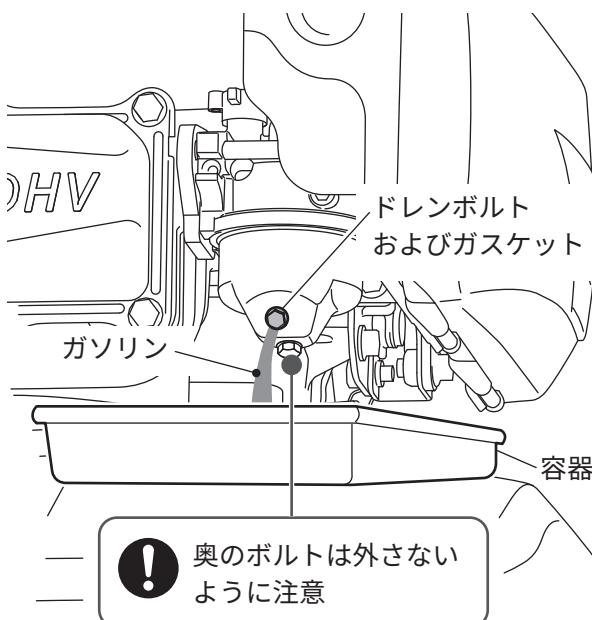
6) エンジンが「ガス欠状態」で停止するまで待つ

取り扱いのポイント

- 状況によって「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。

7) 排出するガソリンを受ける容器を用意する

8) キャブレターのドレンボルトの下に容器を置き、ドレンボルトをレンチでゆるめてガソリンを抜く

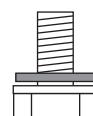


△ 危険



ガスケットを必ず取り付ける

取り付けが悪いとガソリンがもれ、火災や爆発の原因になるおそれがあります。



ガスケット

ドレンボルト



ガソリンをこぼさない

こぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。

拭き取った布切れなどは、火災と環境に充分に注意して処分してください。

ガソリンを衣服にこぼした場合、直ちに衣服を着替えてください。衣服へ引火する危険があります。

取り扱いのポイント

- キャブレター内のガソリンを抜かずに長期間放置すると、ガソリンが変質しエンジンが始動しなくなる場合があります。

9) ドレンボルトをレンチでしっかりと締め付ける

10) 燃料コックを「閉」の位置にする

11) 24ページ「《保管場所について》」を参考し保管する

△ 警告



抜き取ったガソリンは適切に処理する

火災や爆発の原因になります。

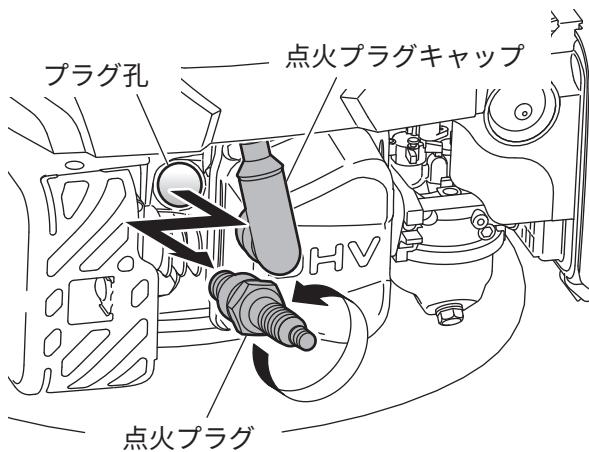
取り扱いのポイント

- エンジンオイルは冷暗所に保管してください。寒暖差の大きい場所では結露により水やサビが発生します。それらがガソリンなどに混入するとエンジン不調の原因となります。
- 次回使用時は新しいガソリンを給油してください。

2. 長期保管

- 1) 「1. 一時保管」10)までを行う
- 2) 本機が冷めるまで待つ
- 3) 点火プラグを外し、プラグ孔からエンジンオイルを3~5mL給油する

点火プラグの取り付け、取り外しは31ページ「3. 点火プラグの点検と交換」を参照してください。



- 4) リコイルを2~3回ゆっくりと引いた後、点火プラグを取り付ける

⚠ 注意



リコイルは勢いよく引かない
プラグ孔からエンジンオイルが勢いよく吹き出しあそれがあります。

- 5) リコイルを引き、重くなった状態（圧縮状態）にする
- 6) 各部の水、ほこりなどの汚れをきれいに清掃する
- 7) 24ページ「《保管場所について》」を参考し保管する

定期点検を行いましょう

本機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために、定期点検を行いましょう。

点検の結果、異常があった場合は本機を使用しないでください。

- 点検をするときはエンジンを停止し、平坦な場所で行ってください。

対象部品	点検項目	点検時期 ^{*1}				
		稼働期前	作業前点検	1ヵ月毎 または 20時間 運転毎	3ヶ月毎 または 50時間 運転毎	1年に一回 または 300時間 運転毎
エアクリーナー	点検 (30ページ)	●				
	清掃 (30ページ)				● ^{*1}	
	フィルター交換					● ^{*2}
エンジンオイル	量	●				
	交換 (33ページ)		● ^{*2}	● ^{*2}	● ^{*2}	
点火プラグ	点検・清掃 (31ページ)	●				
	交換 (31ページ)					●
Vベルトカバー	清掃 (36ページ)			●		
各締め付け部	点検	●				
各スイッチ、レバー、ハンドル	動作点検	●				
ワイヤー	点検・調整		● ^{*3}			
格納時各部防錆、給油	塗布、給油			●		
アイドル回転	点検・調整		● ^{*3}			●
ピストン	カーボンの除去	150時間ごと ^{*3*4}				
刈刃	点検 (14ページ)	●	●			
燃料タンク	清掃					●
燃料配管部	亀裂、損傷の確認、交換	2年ごと (必要であれば交換 ^{*3})				

*1 点検時期は表示の期間ごとまたは運転時間ごとのどちらか早いほうで実施してください。

*2 消耗部品です。点検・交換時期は目安です。使用状況などにより異なります。

*3 適切な工具と整備技術を必要としますので、お買い上げ販売店へお申し付けください。

*4 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

「故障かな？」と思ったら（故障と処置）

修理は本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご依頼ください。

症状	考えられる原因	処置	参照ページ
エンジンが始動しない	ガソリンが入っていない	ガソリンを給油する	9
	プライミングポンプを押していない	プライミングポンプを押す	18
	指定外 [*] のガソリン、エンジンオイルによるエンジン不調	正しいガソリン、エンジンオイルに入れ替え、改善が行われない場合は本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	9、38
	古いガソリン、エンジンオイルによるエンジン不調	ヘゴ相談ください	
	燃料コックを開いていない	燃料コックを「開」にする	18
	エンジンの始動方法に不足などがある	正しい始動方法を確認する	18
	点火プラグかぶり、汚れ、破損	点火プラグの点検・交換・調整	31
	燃料タンクに水が入っている	「1.一時保管」の抜き方を参考にガソリンを抜く	24
	オイル上がり	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
エンジンが数分動いた後止まる	キャブレターが詰まっている		
	上記を確認しても改善が見られない →エンジン内部部品の損傷		
	プライミングポンプを押していない	プライミングポンプを押す	18
	指定外 [*] のガソリン、エンジンオイルによるエンジン不調	正しいガソリン・エンジンオイルに入れ替え、改善が行われない場合は本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	9、38
	古いガソリン、エンジンオイルによるエンジン不調	ヘゴ相談ください	
	点火プラグの劣化	点火プラグの点検・交換・調整	31
排気口から白煙が出る、またはオイル垂れが多い、本機が転倒した	暖気運転が足りない	暖気運転を行う	20
	エアクリーナーのフィルターが詰まっている	フィルターを清掃する	30
	エンジンオイルの入れ過ぎ	エンジンオイルを正しい量にする	11
リコイルスターーグリップが引けない、引いてもエンジンが始動しない	機体を右方向以外に傾けたことによるオイル上がり	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
	指定外 [*] のエンジンオイルを使用	指定のエンジンオイルを使用する	38
	リコイルスターーグリップを引く速度が遅い	勢いよく引く	19
刈刃の回転が止まる、または次第にゆっくりになる	リコイルスターーの不具合	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
	刈刃周辺に草やゴミが巻き付いた	エンジンを停止し、草やゴミを取り除く	22

* 混合燃料／長期保管により変質したもの／水分、サビ、ゴミなどの異物が混ざったもの／アルコール入りのもの／ペットボトルなど、消防法に適合していない携行缶で保管したもの

整備

お客様にてVベルトの交換、ミッションケースのグリス交換は行えません。

⚠ 警告

本機に貼付された警告ラベルに従う
高温になる部品があるため、ヤケドのおそれがあります。

点検、整備は平坦・水平な場所で行う

点検、整備や清掃時は必ずエンジンを停止する

誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキヤップを取り外してください。

点検時に機体を傾けるときは必ず後方から見て右側に倒す（エアクリーナーが上、マフラーが下になる状態）

その他の方向に傾けるとガソリンがもれ火災の原因となります。また、始動不良や白煙を上げる原因となります（オイル上がり）。詳細は14ページの図をご覧ください。

⚠ 警告

本機を分解、修理、改造しない
指定部品以外は使用しない
異常動作してケガをする、また本機や接続機器が故障する原因になります。

⚠ 注意

お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へ作業を依頼する

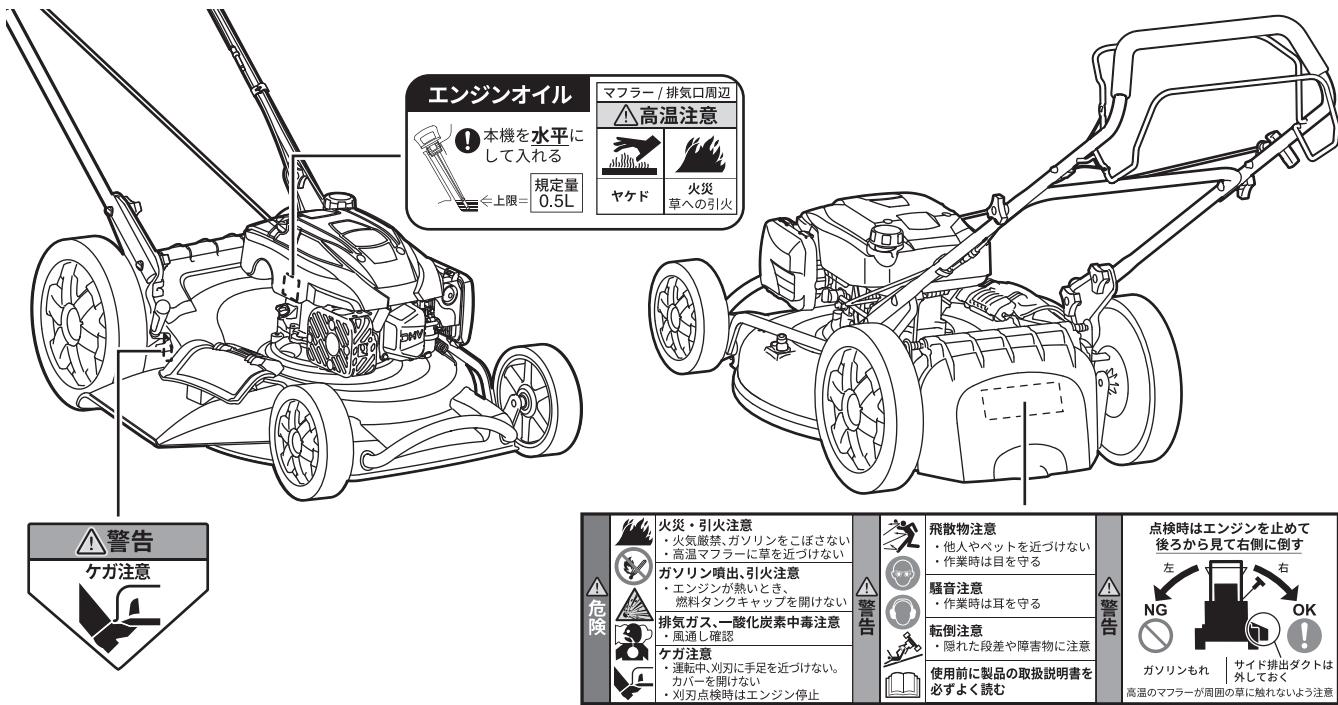
熱くなっているマフラー、排気口、およびエンジン各部をさわらない

刈刃周辺の点検を行うときは、厚手の手袋をする

ケガをするおそれがあります。

1. 安全ラベル

- ラベルははっきり見えるように、常にきれいに保ってください。
- ラベルが汚れて見えなくなった場合や、破れ・紛失などした場合には、購入店に注文し貼り替えてください。またラベルが貼られている部品を交換する場合、ラベルも新しいものに交換してください。



2. エアクリーナーの清掃

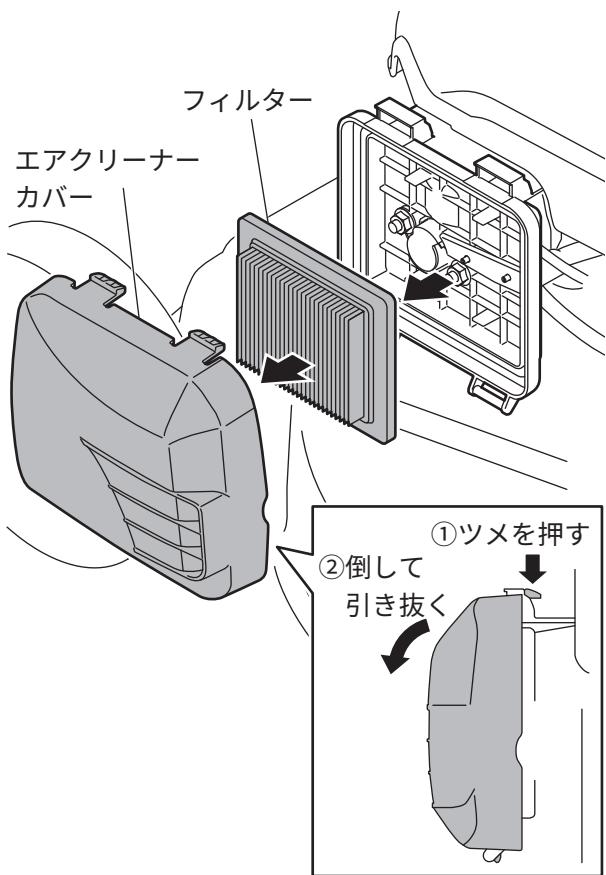
エアクリーナーが目詰まりすると出力不足やガソリン消費が多くなります。定期的に清掃してください。ほこりの多い場所で使用した場合、1日1回または10時間運転ごとに清掃を行ってください。

取り扱いのポイント

- フィルターを取り付けずにエンジンを運転しないでください。エンジンの摩耗が早まります。
- エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。

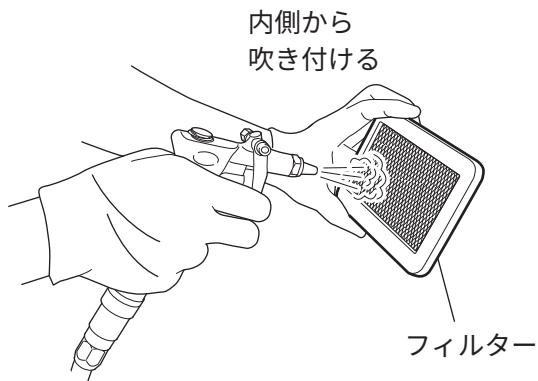
1) エアクリーナーカバーを外し、フィルターを取り出す

エアクリーナーカバーは、ツメを押しながら上部を外した後、下部の合わせ部を外します。



2) フィルターの汚れを落とす

フィルターは内側から圧縮空気（圧力207 kPa《30 psi》以下）を吹き付けるか、軽く叩いて汚れを落としてください。



取り扱いのポイント

- ブラシを使用して清掃しないでください。汚れが纖維の中に入り、汚れが取れなくなるおそれがあります。

3) エアクリーナーカバーの吸気口の汚れを落とす

エアクリーナーカバーは内側から圧縮空気（圧力207 kPa《30 psi》以下）を吹き付けるか、軽く叩いて汚れを落としてください。

4) フィルターやエアクリーナーカバーなど、各部品に損傷がないことを確認する

5) フィルターとエアクリーナーカバーを元に戻す

取り扱いのポイント

- フィルターはめくれやすれがないか確認し、エアクリーナーカバーを確実に取り付けてください。
- フィルターを取り付けていない状態で、エンジンを始動させないでください。エンジンの耐久性に著しく悪影響を与えます。

3. 点火プラグの点検と交換

点火プラグが汚れていたり、電極が摩耗したりすると、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因となります。

点火プラグは徐々に劣化します。定期的に点検を行い、必要であれば交換する必要があります。

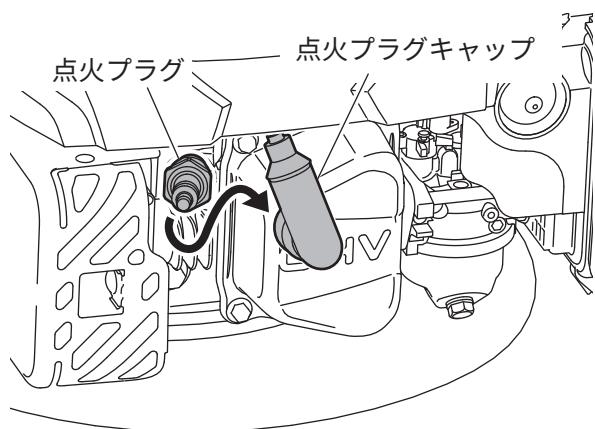
点火プラグの詳細は38ページ「仕様」をご確認ください。

3.1 点火プラグの取り外し

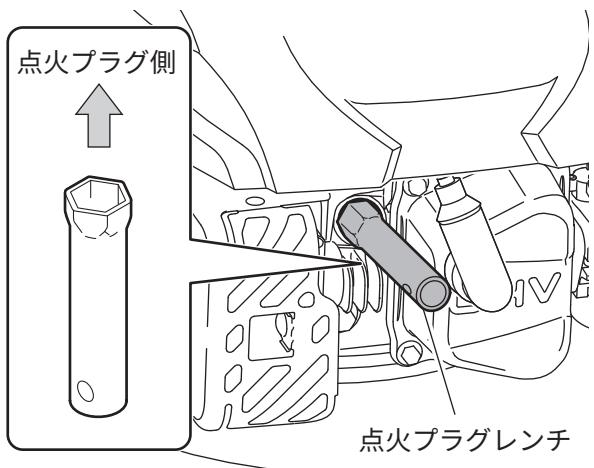
△注意

! 点火プラグ脱着時は、碍子（がいし／白い陶器部分）を損傷させないよう注意する
碍子が損傷すると、電気が漏れて火災などを誘発する原因になります。

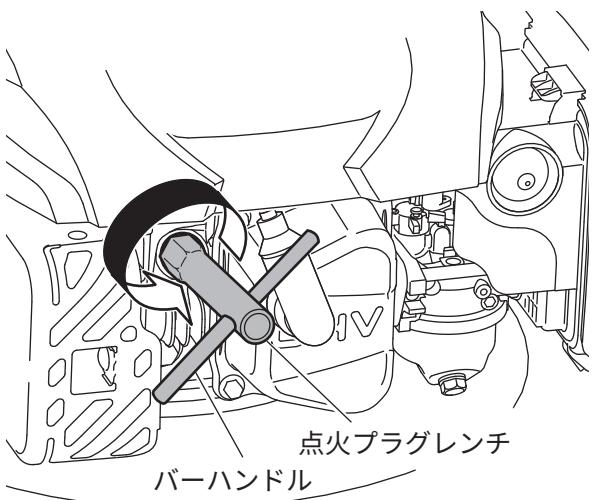
1) 点火プラグキャップを外す



2) 点火プラグレンチを点火プラグの六角形部分に合わせてさし込む



3) 点火プラグレンチ上部の穴にバーハンドルを通して、反時計回りに回して取り外す



取り扱いのポイント

- 点火プラグを外すとき、最初は強い力が必要です。ケガをしないように注意してください。

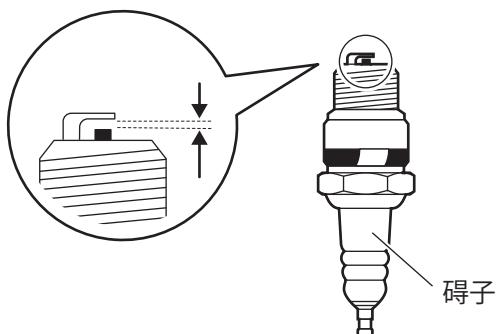
3.2 点火プラグの点検

- 1) 取り外した点火プラグを確認し、ぬれていたり汚れていたりしている場合は、布切れなどで拭く
- 2) 電極付近が黒くまたは白く焼けている、ガソリンで湿っているときは、パーツクリーナーで清掃する（通常はキツネ色に焼けます）

点火プラグは、エンジンの始動方法などに問題があると次のようにになります。

- 黒くくすぶっていたり、白く焼けたりしている
 - エンジンオイルの入れ過ぎなどでカーボン付着がおこっている「くすぶり」
 - エンジンが運転を開始した後も長く「始動」状態にした、エンジンスイッチが「停止」の状態でリコイルを何回も引いたなど、ガソリンが多く供給されすぎた「かぶり」
- 3) 電極のすき間（点火プラグギャップ）を確認して、次の寸法になっていない場合は調整する

点火プラグギャップ：0.7～0.8 mm



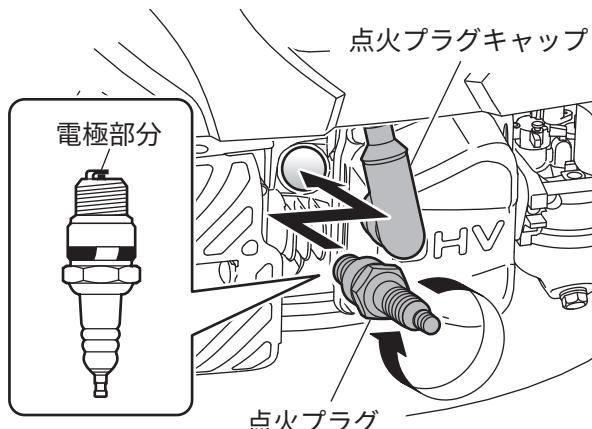
3.3 取り付け

取り扱いのポイント

- 点火プラグは慎重に取り付けてください。最初は必ず手で取り付けてください。最初から点火プラグレンチを使用して取り付けると、ネジのタップが潰れるおそれがあり、エンジン破損の原因になります。
- 点火プラグキャップは根元を持ち、取付方向にまっすぐ確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。斜めに挿入すると点火プラグキャップが破損する場合があります。

1) 点火プラグを取り付ける

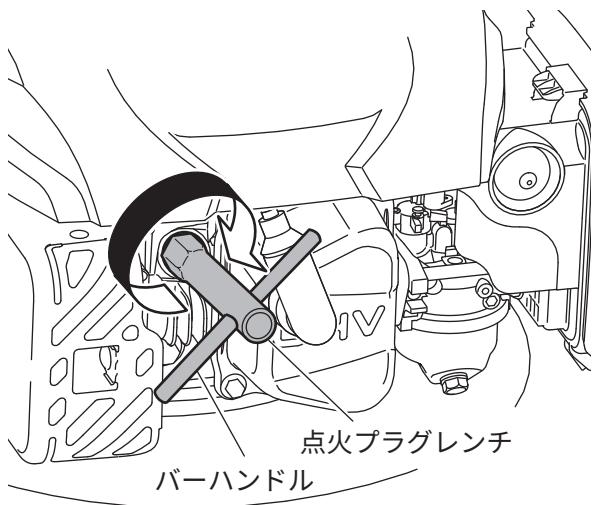
電極部分を下にして、手で元の場所に時計回りで取り付けてください。



2) 点火プラグレンチを手で締める

3) プラグレンチにバーハンドルを付けて点火プラグを増し締めする

1/4から1/2回転を目安に増し締めしてください。



4) 点火プラグキャップを取り付ける

取り扱いのポイント

- 点検や清掃、調整後は点火プラグキャップを確実に取り付けていることを確認してください。確実に取り付けないとエンジン不調の原因になります。
- 点火プラグの清掃やすき間調整をしてもエンジンが始動しない場合は、新しいプラグに交換してください。

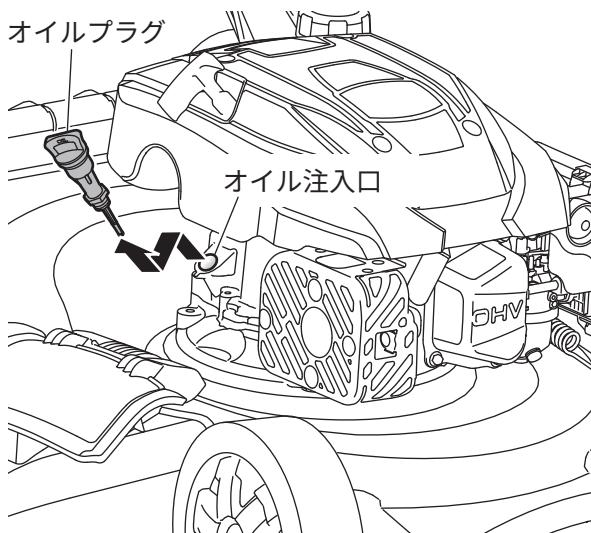
4. エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れているとエンジンの寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守ってください。

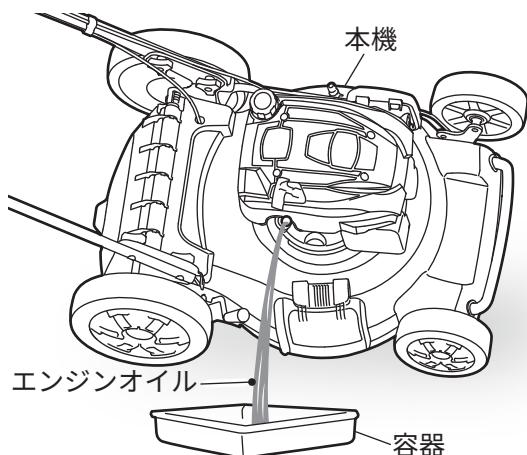
△注意

- !
エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなどの温度、また油温も高くなっているため冷えてから行う
ヤケドをするおそれがあります。

1) オイルプラグを外す



2) 本機を傾けてエンジンオイルを抜く



3) 10ページ「2. エンジンオイルの給油」を参考にしてエンジンオイルを入れる

5. 刈刃の交換

⚠ 危険

!
刈刃の交換は、専用工具を用意し、必ず整備技術を持った方が行う

刈刃の交換には、専用工具と整備技術が必要です。刈刃を取り外す、または取り付ける際は、必ず整備技術を持った方が作業してください。お客様による刈刃の交換が難しい場合は、本紙裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。

!
刈刃などは指定のトルク値で締め付ける

フリー刃の固定ボルトが既定のトルクで締め付けられていない場合、それらが外れて使用者や周囲の人、動植物などが死傷するおそれがあります。お客様がトルクレンチなど適切な工具と整備技術をお持ちでない場合は作業を行わず、本紙裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。

🚫 つまつた草や土を取り除く前にエンジンを停止する

刈刃に巻き込まれケガをするおそれがあります。

⚠ 注意



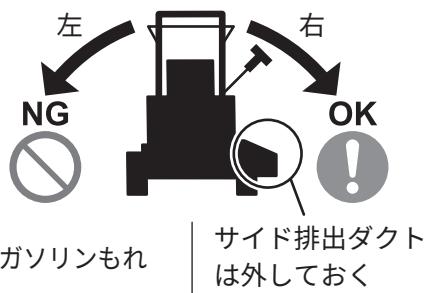
サイド排出ダクトは取り外して作業する
サイド排出ダクトが付いている場合は取り外し、サイド排出カバーを閉めた状態で本体を倒してください。



フリー刃は2枚同時に交換する
バランスがくずれ、本機に異常な振動が起こる可能性があります。

⚠ 警告

!
点検時に機体を傾けるときは必ず後方から見て右側に倒すこと（エアクリーナーが上、マフラーが下になる状態）



高温のマフラーが周囲の草に触れないよう注意

その他の方向に傾けるとガソリンがもれ火災の原因となります。また、始動不良や白煙を上げる原因となります（オイル上がり）。

!
刈刃や周辺の草を取り除くときはブラシなど適切な道具を使用する

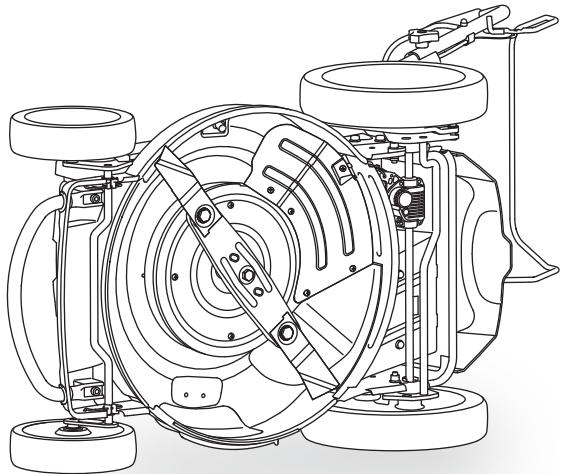
🚫 本機を分解、修理、改造しない
指定部品以外を使用しない

異常動作してケガをする、また本機や接続機器が故障する原因になります。

整備

1) 刃刃の面が見えるように本体を倒す

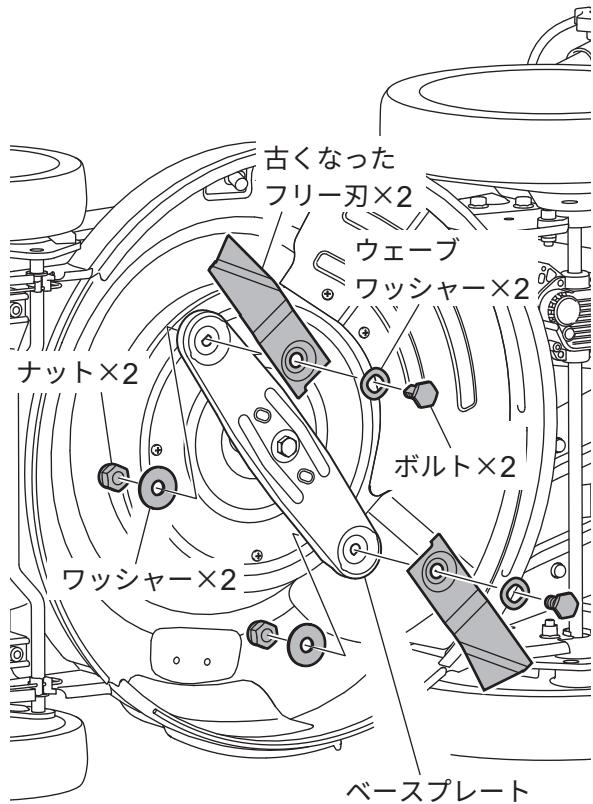
- ・本体は、エアクリーナーが上、サイド排出口が下になるように倒してください。
- ・刃刃の周辺に土や草が絡みついている場合は、汚れを取り除いてください。



2) ベースプレートから、古くなったフリー刃を取り外す

フリー刃は、ナットにソケットレンチをかけ、緩めます。ボルトは回転止めされているため、ソケットで受ける必要はありません。

【ナットのソケットレンチ：17mm】



3) ベースプレートに新しいフリー刃を取り付け、指定したトルク値で締め付ける 【指定トルク値：20～30N・m】

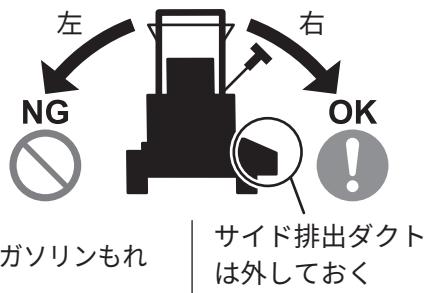
- ・必ず、ボルトとフリー刃の間にウェーブワッシャーを入れてください。
- ・古いフリー刃を外した要領で、新しいフリー刃を取り付けてください。その際、フリー刃の固定は必ずトルクレンチを使用し、指定されたトルク値にて締め付けてください。

6. Vベルトカバー内の清掃

⚠ 警告

!
点検、整備や清掃時は必ずエンジンを停止する
誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキヤップを取り外してください。

!
点検時に機体を傾けるときは必ず後方から見て右側に倒すこと（エアクリーナーが上、マフラーが下になる状態）



高温のマフラーが周囲の草に触れないよう注意
その他の方向に傾けるとガソリンがもれ火災の原因となります。また、始動不良や白煙を上げる原因となります（オイル上がり）。

⚠ 注意

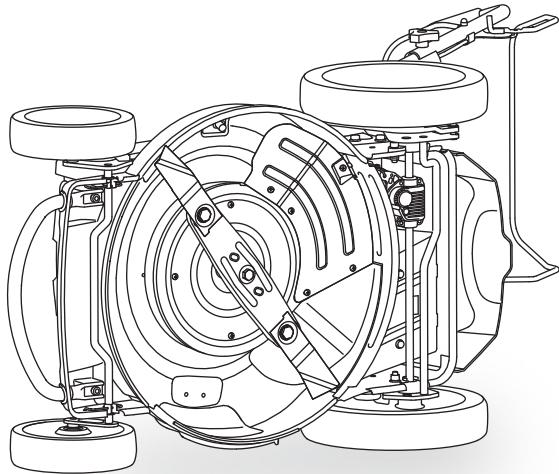
!
刈刃周辺の点検を行うときは、厚手の手袋をする
ケガをするおそれがあります。

6.1 Vベルトカバーの取り外し

1) リアスタッフィングを取付けているときは取り外す

2) 刈刃の面が見えるように本体を倒す

- ・本体は、エアクリーナーが上、サイド排出口が下になるように倒してください。
- ・刈刃の周辺に土や草が絡みついている場合は、汚れを取り除いてください。



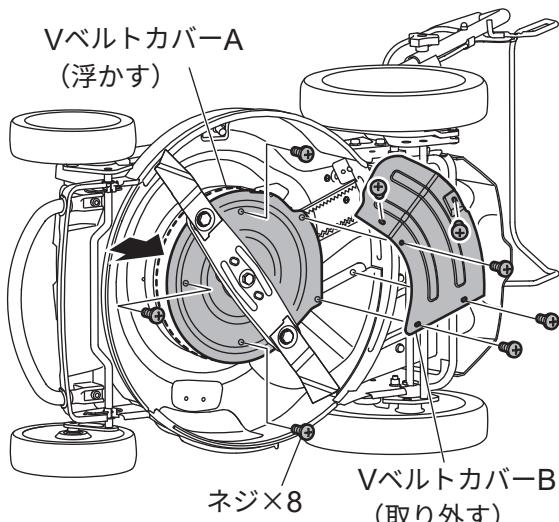
3) ネジ（8か所）を外す

プラスドライバーNo.2を使用してください。

4) VベルトカバーBを取り外す

5) VベルトカバーAを浮かせる

ベースプレートがあるためVベルトカバーを本機から完全に取り外すことはできません。

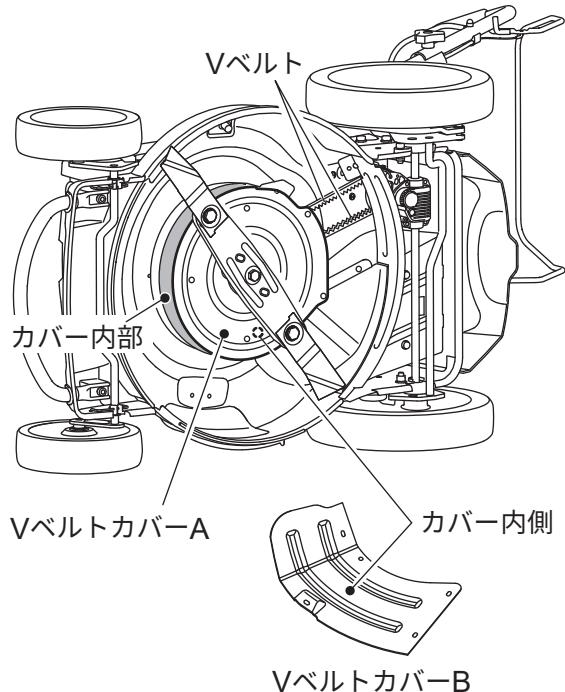


整備

6.2 Vベルトカバー内側の点検、清掃

1) 水道水やエアーブロワなどでVベルトカバー内、およびカバー内側を清掃する

Vベルトを傷つけないよう注意しながら、草などを取り除いてください。



取り扱いのポイント

- 高圧洗浄機を使用しての清掃は行わないでください。本機、特にエンジンが破損する可能性があります。

2) Vベルトカバーおよび本体をきれいな布などで吹き上げ、よく乾かす

⚠ 警告

- !
エンジン周り、特にマフラー やエアクリーナー周辺に吹き飛ばした草などが付いていた場合は取り除く
そのままエンジンを始動すると火災や、本機の故障の原因となります。

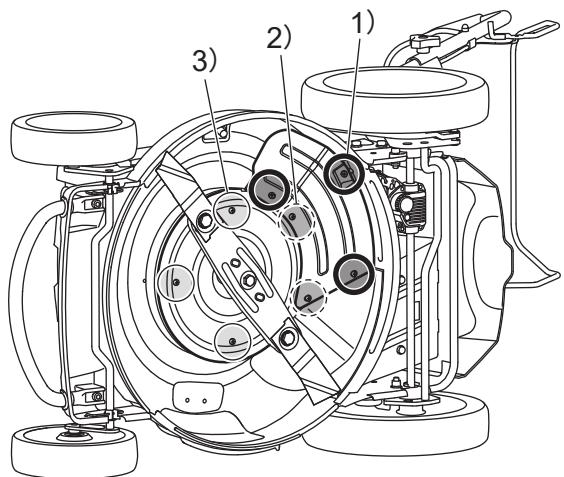
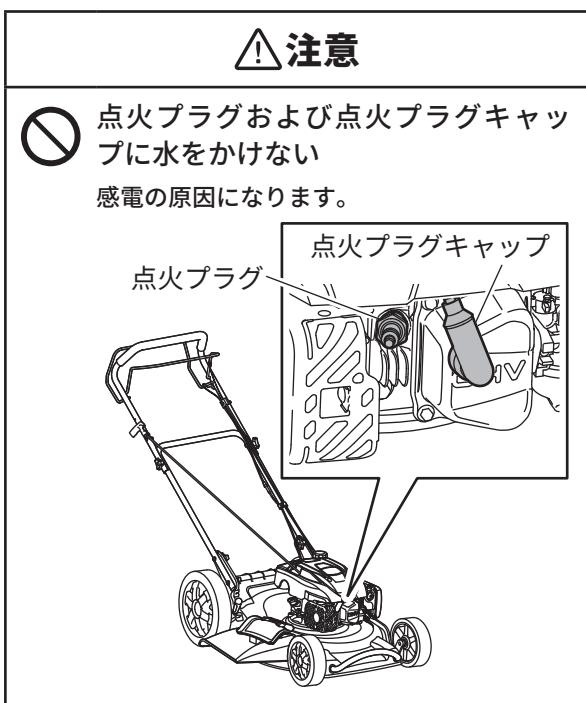
6.3 Vベルトカバーの取り付け

1) VベルトカバーBの3か所をネジで仮締めする

2) VベルトカバーBとVベルトカバーAの2か所、共締め（ともじめ）する部分をネジで仮締めする

3) VベルトカバーAの3か所をネジで仮締めする

4) 全8か所のネジを本締めする



(1) (2) (3)

仕様

機種名	EFB-53D	
製品名	エンジン草芝刈機	
用途	草刈り、芝刈り	
草刈機	刈刃 ^{※1}	フリーカッタ
	刈込幅	530 mm
	刃物回転方向	時計回り（使用者から見て）
	刈取高さ	30~90 mm（レバー7段階）
	排出方法	サイド排出、マルチング、リア排出
	走行性能	前進：3.0 km/h
エンジン	タイプ	空冷4サイクルガソリンエンジン
	モデル（メーカー：名称）	工進：KV170-S
	排気量	170 cm ³
	最大出力	2.8 kW (3.8 PS) / 3,600 rpm
	燃料	自動車用無鉛ガソリン
	燃料タンク容量 ^{※2}	0.8 L
	エンジンオイル ^{※3}	4サイクル用エンジンオイル API分類SE級以上：SAE 10W-30
	エンジンオイル容量 ^{※4}	0.50 L
	燃料消費目安	約50分
	始動方式	リコイルスターター方式
使用環境温度	点火プラグ（メーカー：品番）	NGK：BPR5ES
	範囲	-5~+40 °C
製品寸法：全長（L）×全幅（W）×全高（H） ^{※5}		1,415 × 605 × 1,035 mm（ハンドル上段設定）
製品重量 ^{※5}		34.0 kg

備考

・芝刈り時に使用すると便利なグラスバッグは付属していません。必要に応じて「PA-540 ガラスバッグ」をお買い求めください。

※1：お客様にてVベルトの交換、ミッションケースのグリス交換は行えません。

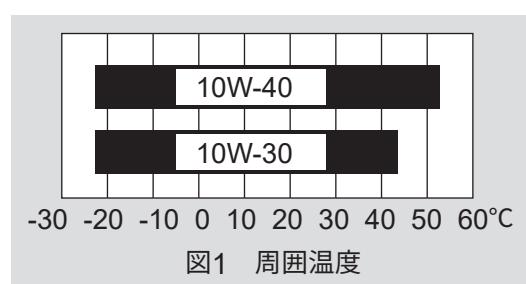
刈刃の交換には、専用工具と整備技術が必要です。刈刃を取り外す、または取り付ける際は、必ず整備技術を持った方が作業してください。お客様による刈刃の交換が難しい場合は、本紙裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。

※2：給油限界位置（給油口から約2 cm下、出っ張りのところ）まで入れたときの値です。

※3：お使いの地域の平均気温が表記の範囲内（図1）であれば、図に示された他の粘度のオイルを用いることができます。

※4：上限の値です。

※5：サイド排出ダクトを含まない値です。



パートのご注文は

パートは、必ず指定のものをご使用ください。

パートは購入店または弊社製品お取扱店を通じてご注文いただけます。

また、弊社ウェブサイトにてパート表、価格をご覧いただけます。

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

1. ご注文時のお願い

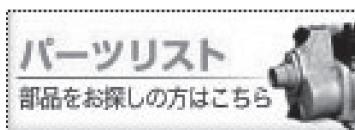
部品番号（7～9桁）または機種名・JAN、名称、必要な個数を正しくお伝えください。

2. パート表・価格

- 1) <https://www.koshin-ltd.co.jp>へ
アクセス



- 2) トップページの「パートリスト」バナーをクリック



- 3) エンジンのパートは「エンジンパートリスト」バナーをクリック



3. オプションパート（別売拡張部品）

外観	名称	番号	備考
	グラスバッグ	機種名：PA-540 JAN:4971770-001237	芝を刈るときに、本機のリア排出ポートに取り付けることで、刈った芝をグラスバッグに集めて回収することができます。
	フリー替刃	機種名：PA-541 JAN:4971770-001220	内容物：ボルト、ウェーブワッシャー、フリー替刃、ワッシャー、ナット各2（1台分）

保証書

レシート(販売証明書)と
共に保管してください

この保証書は本書に明記した期間、条件のもとにおいて、下記記載内容で無償修理をお約束するものです。なお、本書によってお客様の法律上の権利が制限されるものではありません。

保証期間内に取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常なご使用状態で故障した場合には、本記載内容に基づき無償修理いたします。製品と本書、レシート(販売証明書)をご準備のうえ「工進修理受付窓口」へご相談ください。

機種	エンジン草芝刈機 EFB-53D		*お買い上げ日	年月日
保証期間	お買い上げ日より1年間		※購入店 住所 店名 電話	〒 （　）
お客様	*お名前			
	*ご住所	〒 電話 ()		

<保証契約約款>

- 保証期間内でも次の場合は有料修理となります。
 - 〈イ〉不適切な使用、改造、取扱説明書に記載されている保守・点検以外の分解や修理、弊社指定の純正パーツ以外を使用したことによる故障または損傷、日常点検やお手入れ、整備を怠ったことにより生じた不具合。
 - 〈ロ〉お買い上げ後の落下、運送等による故障または損傷。
 - 〈ハ〉火災・地震・水害・落雷・その他天災地変・公害・指定外の使用(電圧、周波数、使用液、使用燃料など)や、使用環境要因による故障または損傷。
 - 〈ニ〉取扱説明書に記載の用途以外の使用による故障または損傷。
 - 〈ホ〉本書の提示がない場合、また本書にお客様名、お買い上げ年月日・購入店名の記入またはレシート(販売証明書)の添付がない場合。
 - 〈ヘ〉本書の字句を書き換えられた場合。また中古販売にて購入したもの。
 - 〈ト〉同梱付属品、消耗品の交換。
 - 〈チ〉車両、船舶などへの取り付けや外部要因による故障または損傷(船舶への取り付けは弊社指定船舶用製品を除く)。

*に記入のない場合は無効になりますので必ずご確認ください。

- 保証期間内でも次の場合は補償いたしかねます。
 - 〈イ〉機能上影響のない感覚的現象(音、振動、操作感など)や使用損耗および部品寿命による不具合。
 - 〈ロ〉製品の不具合や使用によって生じた直接ならびに間接の損害。
- 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
- 出張修理は対応いたしかねます(弊社指定製品を除く)。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。海外での購入ならびに使用については一切責任を負いません。
This warranty is valid only in Japan, also not covered for overseas purchase and use.
- 弊社の判断により、修理に代えて同機種との交換、または同等性能を有する他機種への交換となる場合があります。

株式会社 工進 京都府長岡市神足上八ノ坪12

レシート(販売証明書)貼付位置

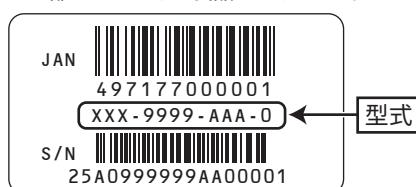
お問い合わせ

【個人情報のお取り扱いについて】お客様の個人情報保護方針は、弊社ウェブサイトの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

お問い合わせの際は、

- 型式(下図参照)、
 - お買い上げ年月日、
 - 故障状況など
- をお知らせください。

※本体または梱包箱に貼付しています。
一部ラベルのない製品もございます。



■ 製品・パーツの販売についてのお問い合わせは

購入店またはお近くの弊社製品お取扱店にご相談ください。

■ 製品の修理に関するお問い合わせは……「工進修理受付窓口」へ

0120-987-386 (通話料無料) 平日: 9:00~17:00

会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ウェブサイトにてご案内します。

■ ダイレクト修理

※北海道・沖縄を除く

- ①お電話またはメールで連絡
- ②修理品をお預け(宅配業者が取りに伺います)
- ③センターで修理
- ④ご自宅までお届け
- ⑤お支払いはクレジットカードまたは代引き

■ 製品に関するお問い合わせは……「お客様相談窓口」へ

キヨウツのコーシン

0120-075-540 (通話料無料)

平日: 9:00~17:00

会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ウェブサイトにてご案内します。

株式会社 工進

〒617-8511
京都府長岡市神足上八ノ坪12

<https://www.koshin-ltd.co.jp>



Q&A
Eメール

お客様
サポートページ▶
Eメール



電話